

IV 研究指導概要、研究科規程 及び専攻別教育課程表

文学研究科

研究指導概要

原則として下記のような指導に基づいて研究を進める。

博士前期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・研究テーマを特定し、履修計画について指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、資料収集・調査など研究に必要な研究方法論を修得する。
- ・本人の問題意識、研究テーマにかかわる研究分野の先行研究レビューのための指導を受ける。

2 セメスタ

- ・研究計画の達成状況に応じて、研究計画の再検討や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した先行研究や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験し、研究深化のためのプレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。
- ・修士論文の骨子および構成について検討する。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査・分析などを行い、研究方法の妥当性を検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。また、各専攻主催の研究発表会などで構想の中間報告を行う。

4 セメスタ

- ・研究成果を修士論文にまとめ、論文構成、分析結果、論文の表現等について総合的な指導を受ける。
- ・研究精度を高めて、修士論文を完成する。

2. 論文報告会（論文発表会）等

当該セメスタに修士論文を提出予定の者は、各専攻主催の研究報告会あるいは研究発表会などで、論文執筆の進捗状況の報告あるいは論文の成果を発表する。

詳細は、各専攻の指示による。

3. 特定課題研究論文

英文学専攻、教育学専攻および国際文化コミュニケーション専攻では、修士論文の提出にかえて、特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいう。特定課題研究論文での提出を希望するものは、以下の要件に沿って提出すること。

英文学専攻

1. 論文の題目・内容については、主指導教授との相談により決定する。
2. 教育現場の質の向上・改善に資する研究成果を挙げ、専修免許の取得を目指す者を対象とする。但し、博士後期課程への進学を志望する場合には、特定課題研究論文の提出は認めない。

教育学専攻

1. 主指導教授および副指導教授と協議し、原則として第1セメスタ終了時までには、修士論文、特定課題研究論文のいずれかを選択する。
2. 博士後期課程への進学を希望する場合には特定課題研究論文を選択することはできない。修士論文を選択すること。
3. 特定課題研究論文を提出予定の者も、修士論文中間報告会および修士論文成果報告会で報告しなければならない。
4. 特定課題研究論文において、カリキュラムや教材の開発、実践研究報告、作品や演奏等、自らの実践の成果を研究テーマにした場合は、それらの成果についても論文の枚数および字数に含めることができる。

国際文化コミュニケーション専攻

1. 論文の題目・内容については、主指導教授との相談により決定する。
2. 特定課題研究論文を提出できる者は、英語教育（専修免許状の取得を目指す者）または日本語教育の教育現場において、カリキュラムや教材の開発、実践研究報告等、教育の向上に資する実践的な成果を有する者とする。但し、博士後期課程への進学を志望する場合には、特定課題研究論文の提出は認めない。
3. 特定課題研究論文の提出を希望する者も修士論文中間報告会および修士論文成果発表会に参加する。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・本人の問題意識やこれまでの研究経過をふまえ、主指導教授の指導と副指導教授の助言を受けて研究テーマおよび研究方法を決める。
- ・研究計画を立案し、資料収集・調査等の詳細および研究スケジュールを決定する。

2 セメスタ

- ・研究テーマに関連ある先行研究レビューを行い、先行研究の成果と課題を整理する。
- ・研究計画の達成状況に応じて、自己の研究計画の再検討や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究方法および資料分析についてプレゼンテーションや討議を経験し、研究の深化を図る。
- ・学会発表並びにレフェリー制のある学会誌への研究論文の執筆計画を立案する。

3 セメスタ

- ・主指導教授と相談しながら、研究計画の再確認・再検討を行い、必要に応じて修正案を練る。
- ・学会発表並びに研究論文の投稿に向けて、草稿を作成する。

4 セメスタ

- ・研究成果を論文等にまとめ、論文構成、分析結果、論文の表現等について総合的な指導を受ける。
- ・国内外での学会発表や論文投稿等に向けた指導を受け、発表を行う。

5 セメスタ

- ・国内外での学会発表や論文投稿を行い、そこで得られた助言や批判にもとづいて、論文の修正と推敲を行う。

6 セメスタ

- ・指導教授および副指導教授の指導助言にもとづいて、博士学位請求論文を提出する。

2. 論文報告会（論文発表会）等

博士（甲）論文を提出しようとする者は、専攻等の主催する報告会等において、研究の進捗状況および論文等の概要を論文提出前に発表する。

詳細は、各専攻の指示による。

東洋大学大学院文学研究科規程

平成29年規程第27号

平成29年4月1日

施行

改正 平成30年4月1日 平成31年4月1日
令和2年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則(昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。)第4条第5項に基づき、東洋大学大学院文学研究科(以下「文学研究科」という。)の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 文学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 文学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 文学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 文学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、文学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

専攻	免許状の種類及び教科		
	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	その他
哲学	公民	社会	-
インド哲学仏教学	公民	社会	
日本文学文化	国語	国語	
中国哲学	国語	国語	
英文学	英語	英語	
史学	地理歴史	社会	
教育学	地理歴史・公民	社会	特別支援学校教諭専修免許状 (知的障害者) (肢体不自由者) (病弱者)
国際文化コミュニケーション	英語	英語	小学校教諭専修免許状 -

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、文学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目の単位を修得し、東洋大学大学院(以下「本大学院」という。)の課程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。

(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が文学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

- この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、改正後の第3条及び第3条別表第2並びに第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。ただし、英語コミュニケーション専攻は、平成31年3月31日に当該専攻に在籍する者が当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続する。

附 則

- この規程は、2020年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、2019年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第2条関係）

文学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について、高度な知識と教養を持ち、それを実際に活用して主体的に社会の課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを表現できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について高度の専門的知識と研究能力を持ち、それによって文化の向上に寄与するとともに社会の要請に創造的に応えることのできる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを研究論文として論理的に説明し社会に発信できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、現実直面する課題に対して問題解決のための様々な提案、アイデアを提起できるような人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 哲学理論を核心に据えながらも、医学を含む多面的思考を習得させ、各種境界領域においてさまざまな人的・知的資源を有効に組み立てることのできる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、深い哲学的知識に基づきながら、現実直面する課題解決のために様々なアイデアを提起し、かつ自らその実現に尽くすことのできるような人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 テキスト研究・哲学史・解釈史研究を中軸に据え、伝統的な哲学の場に立って現実社会に対して提言をする専門的研究者に必要な能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科インド哲学仏教学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する豊かな学識を有し、それらを実社会で活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に不可欠な諸言語の十分な能力を習得させるとともに、文献解読や調査等に必要となる社会的能力を習得させ、総合的な研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関して自立的で卓越した研究能力を有する人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に係わる高度な専門的業務に従事しうる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科日本文学文化専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 各自の研究課題を軸として、広く日本文学文化分野を考究し、国際化時代に適応する高度教養人や高度職業人、とりわけ、研究実践に基づく卓越した能力を持つ国語科中等教育教員などの人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門知識を学術的に展開する研究者としての資質を成長させ、研究能力を生かした日本文学文化分野の研究職員及び国際社会に対応できるような高度な専門的業務に従事できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる専門的かつ高度な研究能力とそれを社会に還元できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科中国哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 中国哲学・中国文学・中国語を三位一体のものとして学び、古典を理解する教養を持つとともに、現代の中国をも理解する力を持ち、これを活用して幅広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 原典読解力と中国学の学習で得た知見とに基づいて物事を合理的に考察し、それを論理的に表現できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 優れた原典読解力に基づいて、東アジア漢字文化圏の支柱となってきた中国の哲学および文学遺産の歴史的・今日的意義を明らかにして社会に寄与できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 独自の手法や視点に基づき、高度な知見と見識を駆使して、中国の哲学や文学の意義を明らかにすることで社会に寄与する研究論文を作成できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科英文学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 近代英語で書かれた文学テキストを読み、必要な文献を参照して、学術スタイルの論文・レポートを書くことができる能力を養成し、これを通して修了後の多方面でのキャリアのために十分な英語運用能力と英米文化についての基礎知識を身につけさせ、社会の多方面で応用できる専門的かつ実践的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 前期課程で養われた能力を基盤として、英語の十分な運用能力と英米文化についての高度な知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英米文学・語学において博士号を取得できる水準の自立的な研究能力を養成する。このために文学テキスト・語学資料はもちろん、多方面にわたる研究書を読みこなし、これらの諸資料を適切に処理することによって、独創的な論文を書き、発表できる力を持てるよう指導する。こうして得られた学識と英語力を活かして、研究職のみならず社会の多方面で活躍できる能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科史学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 歴史に対する深い知識と洞察力を持ち、学校教育、社会教育、ならびに情報産業等の幅広い分野で活躍する、高度の専門性を持つ人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学の3コースを置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域を深く探求する研究能力、およびそれを利用して社会に貢献する能力を習得させることを目的とする。また、博士後期課程進学のための研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門とする歴史学の領域において独創的な研究により学界に寄与し、歴史研究者として自立した研究活動を営み、その能力を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学に関わる多くの専門科目を置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域に深い学識を有し、新たな体系的知見を学界・社会に還元する能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科教育学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育について高い見識を持ち、学校教育、社会教育で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について広い視野に立つことを可能にする深い学識、および教育関連諸分野における実践的かつ専門的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育学・心理学を学んだ成果を生かし、学校教育や社会教育分野において指導的立場で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する指導的人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について幅広い視野から研究する力量、および自立的な研究者に必要な研究能力、さらには、教育関連諸分野において指導的立場で活躍できる資質と能力を習得させることを目的とする。</p>

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 英語を中心とした外国語の高度な運用についての豊富な知識と多様な分析手法を習得し、多言語多文化社会に対する深い理解力とグローバル社会への柔軟で実践的な適応力を身に付けた国際的な高度専門職業人及び教養人、言語コミュニケーション及び世界の諸地域の文化に関する専門的教育・研究の分野で活躍できる人材を養成する。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英語を中心とした外国語による実践的で高度な言語運用能力によるコミュニケーションへの深い理解力と、多様な課題に対応する能力とを習得させるとともに、欧米やアジアの文化などへの深い理解力と教養、グローバルな多言語多文化社会の中で活躍できる哲学的な思考力、実践的な研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか コミュニケーションや多様な文化に関する高度で専門的な知識及びグローバルな学術研究能力を身に付け、それらの能力を生かし得る国際関係機関や国内外の大学や研究所等の専門教育研究機関で活躍できる実践的な人材を養成する。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 グローバルな水準で通用しうる高度で専門的な研究能力を習得させ、国内外でのグローバル社会の発展や文化交流に貢献しうる実践的能力を習得させることを目的とする。</p>

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第3条関係）

文学研究科哲学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 従来研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 従来研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。 (5) 学界や社会に寄与する論文を執筆する研究能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 「哲学研究指導」科目を中心に、「古代哲学、中世哲学、近世哲学、現代哲学、比較哲学、論理学、倫理学、実践哲学」等の科目を幅広く開講し、各自の専門領域の外国語テキストの解説、解釈を徹底するとともに、精神医学など多方面の知識を習得させる。また研究指導においては、各自のテーマに合わせて、そのテーマに必要な能力の養成を行う。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果の評価については、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 1年間の海外留学を推奨し、外国語テキストの一次文献、二次文献の読解力、作文力の習得を目指す。また、実践哲学を通しての実践領域における諸問題の哲学的解明を有効に展開しうる能力を養成し、各自の論文課題にしたがって科目を選択できる教育課程を整備する。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果の評価については、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>本専攻の目的に即して、理論哲学と実践哲学のどちらを中心にするにしても、両方の統合に努力し、社会における諸問題に関して統合的哲学研究を通して解決する能力を有する人材の養成に努めるべく、それにふさわしい知識、能力、意欲のある人材を受け入れる。</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 問題の中心的な課題を見出すための知識のある者 (2) 解決の選択肢を複数個設定することのできる能力のある者 (3) 上記に必要な持続的な作業を支える意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 問題の中心的な課題を見出し、さらに新たな問題そのものを発見していくための知識のある者 (2) 解決の選択肢を複数個設定し、手続き的な優先順位を決めることのできる能力のある者 (3) 上記に必要な持続的な作業を発展的に支える意欲のある者</p>

文学研究科インド哲学仏教学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する専門知識を身につけている。(2) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象を理解するのに必要な言語能力を修得し、自らの目的意識に沿って、それらの言語で書かれた資料から必要な情報を集め、整理する能力を身につけている。(3) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景に、独自の視点に立って論理的な論述を行う能力、また、論理的で説得力に富むプレゼンテーションを行う能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する高度な専門知識と、当該分野を研究するための高度な言語能力を身につけている。(2) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景としつつ、独自の視点から新たな問題を見出し、自ら収集した種々の資料に基づいてそれを論理的に解明する能力を身につけている。(3) 統一されたテーマのもと、豊富な内容をしっかりとした構成によって論理的に論述する能力、国内外の専門的な学会において、自らの研究内容について論理的にプレゼンテーションをする能力を身につけている。
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、3領域から構成され、インド思想・文化研究には「インド哲学研究」、仏教思想・文化研究には「インド仏教研究」と「東アジア仏教研究」を開講し、各科目とも講義で研究課題の概説をし、演習では主に原典読解を指導して、当該分野における研究課題と方法の基本を教授する。研究指導はおもに主指導教員が修士論文執筆予定者に個別に論文執筆の具体的な指導をする。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目はインド思想・文化研究および仏教思想・文化研究のために各々「特殊研究」を開講し、各科目とも講義で高度な研究課題を提示し、演習では研究動向の指導と主に原典読解を指導して、博士論文執筆予定者の資料研究を教授する。研究指導はおもに主指導教員が個別に論文執筆ならびに学会発表の具体的な指導をする。また、研究分野・内容によって海外の研究機関への留学も薦める。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 当該分野に関して基本的で広汎な知識のある者(2) 誠実で自らを律しながら研究に取り組み、研究資料を十分に読解し、その成果を体系的に表現できる能力のある者(3) 研究対象に主体的に真摯に取り組み、必要に応じて協働で研究するなどの意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 当該分野に関する広汎かつ高度な知識と研究動向についての知識のある者(2) 研究領域に関わる語学能力と独創的研究に耐えうる能力のある者(3) 自立的に研究を進め、研究者としての社会的倫理性を高める意欲のある者

文学研究科日本文学文化専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 日本文学文化に関わる基本的な知識および専門とする領域に関わる専門的知識を身につけている。
- (2) 専門分野の研究方法に基づき、テーマを設定して研究を遂行し、それを論理的に分析・討議することができる。
- (3) 日本文学文化研究に積極的に寄与しうる修士学位論文を作成する能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 日本文学文化に関わる広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識を身につけている。
- (2) 独自の研究課題に基づいて研究計画を立て、独創性に富む新たな知見を導く論理的な分析力と研究遂行力を身につけている。
- (3) 新たな知見を公表し学会・社会に還元する能力を身につけている。
- (4) 広く学会に寄与しうる博士学位論文を作成する高度な能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語を中核に、講義科目と演習科目を有機的に連携させて配列するとともに、文化間融合の観点から「隣接領域科目」を、日本文学文化を相対化、比較対照する観点から「比較文学文化科目」を、それぞれ講義科目として設置し、各自が専門的かつ横断的に選択履修できるよう編成する。いずれも専門分野を幅広い視点から探究できるような学問領域のエッセンスとテーマを掲げて教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に設定、追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、各自が専門分野をより深く探求できるよう、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語についての講義科目を配列し、専門領域の現在的課題を教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に定め追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 日本語・日本文学の基礎知識のある者
- (2) 文学の基礎的読解力、外国語・漢文の基礎的能力のある者
- (3) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 高度な専門知識と論理性を持つ修士論文を執筆できる能力を有している者
- (2) 日本語・日本文学の専門知識のある者
- (3) 外国語の基礎的能力のある者
- (4) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

文学研究科中国哲学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 中国の哲学や文学について専門的な知識を有し、正確な原典読解力を身につけている。</p> <p>(2) 漢文（中国文）で著された中国古典および近現代作品の原典に基づいて、自ら考え設定した課題を考察し、表現する力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 中国の哲学や文学作品読解に関して、独自の手法や視点を身につけている。</p> <p>(2) 中国の哲学や文学作品について深い学識を有するとともに、主体的な問題意識に基づいて研究論文を作成する力を身につけている。</p> <p>(3) 高度な知見と見識の反映する研究成果を世に問い、学界に寄与する高度な水準の研究能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学・中国語学にわたる演習科目や特論科目を配置し、原典の読解力を深めるとともに、文献の扱いに習熟するために、専門とする領域に上記三分野の科目を取組んで、重層的な中国理解を目指す。研究指導は、「研究指導」科目を設置し、研究方法の確立を目指して、論文作成の手順を指導する。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学に関わる「特殊研究」を配置し、文献の批判的検討と分析を行いつつ、優れた文献読解能力を涵養するとともに、独自の研究方法構築への方途を教授する。研究指導は、「特殊研究」と密接に結びついた「研究指導」科目によって、独自の手法や視点に基づいた研究論文の作成方法を指導する。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する基礎的知識のある者</p> <p>(2) 文献の基本的読解能力をもち、文献を扱う基本的な訓練を経ている者</p> <p>(3) 中国哲学・文学研究に、専門的に取り組もうとする意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する高度な知識のある者</p> <p>(2) 優れた文献読解能力を持ち、文献の扱いに習熟した能力のある者</p> <p>(3) 中国哲学・文学研究を深化させ、研究成果を研究論文の作成を通して発表してゆく意欲のある者</p>

文学研究科英文学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。
- (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを独自の研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。
- (3) 学術的水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。
- (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを分析する獨創性に富む問題意識や研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。
- (3) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は英文学・米文学・英語学の三分野に対して均等に演習と講義科目を配列し、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを教授する。研究指導は受講生個人々の要望を聞きながら受講生との対話を重視する形で、研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目においては、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを分析、検討する。研究指導においては、全国的あるいは国際的な学会での発表を念頭に、受講生が追究する研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を検討する。ひいては博士論文の執筆につなげることを目的に、受講生との対話を重視し、個人々の要望を聞きながら、研究指導を進める。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 基本的な英語運用能力と英米文化に関する知識のある者
- (2) 自己啓発に熱意をもって取り組む能力のある者
- (3) 誠実に自らを律しつつ、研究に取り組む意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 博士前期課程修了程度の英語運用能力と英米文化に関する知識のある者
- (2) 創造的研究に耐えうる能力のある者
- (3) 研究者として社会的倫理性を高めようとする意欲のある者

文学研究科史学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史に係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。(2) 歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。(3) 新たな知見を社会に還元する能力を身につけている。(4) 学界の水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満了し、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史に関する広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識を身につけている(2) 独創性に富む問題意識や、歴史学的な研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。(3) 新たな知見を学界・社会に還元する能力を身につけている。(4) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は日本史・東洋史・西洋史の3コースから構成され、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について総合的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を設定し、歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について歴史的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を体系的に設定し、歴史学的な研究方法に基づいて、学界に寄与できる優れた研究成果が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史について基本的な知識のある者(2) 史料の解読能力、総合的な思考力・判断能力があり、学修成果を正確に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史研究の基礎となる専門的な知識や歴史学的な研究方法を、主体的に学ぶ意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史についての基本的な知識、専門とする領域についての専門的な知識のある者(2) 歴史学的な研究方法を修得し、優れた研究能力があり、新たな知見を学界・社会に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史について広い視野と深い学識があり、研究に主体的に取り組む意欲のある者

文学研究科教育学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 先行研究の意義、目的、方法を理解し、教育学研究に必要な知識・技能を身につけている。
- (2) 自ら設定したテーマにもとづいて研究計画を立て、新たな知見を付与する研究を遂行し、論文にまとめることができる。
- (3) 広い知識と洞察力、倫理観を備え、教育学研究を通して社会に貢献できる資質や能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 当該分野の研究史に関する深い理解とそれに依拠した研究方法論を身につけている。
- (2) 独自の研究課題にもとづいて研究計画を立て、独創的な知見を付与する研究を遂行し、博士学位論文にまとめることができる。
- (3) 広汎な知識と洞察力、高い倫理観を備え、教育学研究を通して社会に発信し、貢献できる資質や能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生自らが社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識・研究関心、職場や地域で抱える課題に即して、改善や解決に資する実践的な研究を行えるよう配慮する。

また、教育職員としての高い専門性をめざす者が所定の単位を修得した場合、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）、特別支援学校教諭、小学校教諭 等の教育職員専修免許状を取得することができるよう、免許取得に必要な科目を設置する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生が独創的で社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。また研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識や研究関心、職場や地域で抱える課題、さらには世界的課題に即して、問題解決や改善、社会的提言に資する、高度な研究を行えるよう配慮する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての一般的な知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な基礎的能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して意欲を持つ者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての広範な知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して高い倫理観と志を持つ者。

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p>
<p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身に付けたいうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 英語を中心とした多言語領域におけるコミュニケーションについての専門的な知識と運用能力を身に付けている。</p> <p>(2) 欧米や日本の歴史や文学・文化を中心とする、多文化に対する専門的な知識と理解力、異文化と自文化に対する探求心、柔軟で哲学的な思考力を身に付けている。</p> <p>(3) 教育機関や企業・組織などグローバル社会の現場において有効な課題対応能力を身に付けている。</p> <p>(4) 自らの研究計画に基づいて、独創的で社会に貢献する研究を持続しうる能力を身に付けている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身に付けたいうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 英語を中心とする多言語に対する高度で専門的な知識を身に付けている。</p> <p>(2) グローバルに広がる多言語多文化社会の歴史や文学・文化、社会問題などに対する高度で専門的な知識と深い考察力を身に付けている。</p> <p>(3) 翻訳や通訳など言語コミュニケーションやグローバルな文化研究を行う教育・研究機関で活躍しうる高度な言語運用能力を身に付けている。</p> <p>(4) 言語研究や文学・文化研究に必要な優れた分析能力を身に付けている。</p> <p>(5) 国内外のグローバルな研究・教育機関等で働くうえで必要な研究教育能力、グローバル社会における文化交流や国際的な共同研究に貢献しうる高度な実践力を身に付けている。</p>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p>
<p>【博士前期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション、国際文化の2領域にわたって演習科目及び講義科目を効率的に配置する。言語コミュニケーション領域では、言語学やコミュニケーション学など英語を中心として多言語に対する運用能力やコミュニケーションへの理解力、課題適応力、あるいは英語教育や日本語教育など語学に関する専門的な教育・研究能力を養う。また、国際文化領域では、英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏や日本、アジアなどの文学や歴史、多様な文化事象を学び、多文化に対する知識と理解力を身に付け、複雑化するグローバル社会の文化や歴史、社会、科学技術等に関する課題を考察し解決する科学的・合理的な能力を養成する。そして本専攻では、両領域からの履修を必須とすることで言語コミュニケーションと国際文化の双方の領域の学問を総合的かつ体系的に学ぶ。そのうえで、各自が専門的な視点から学修を深められるように教授する。研究指導は個々人の研究課題に沿った個別指導を中核として、各課題における研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション及び国際文化の領域にわたって配置し、各自が専門領域における研究を深め、高度で専門的な実践力を身に付けられるように最新の研究課題や研究理論、研究方法を教授する。研究指導は、大学院生個々の研究テーマに沿った個別指導を中核として、博士学位を取得すべく、個々の研究テーマにおける高度で専門的な研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。</p> <p>(2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を有し、かつ一層の向上を目指す意欲のある者。
- (2) 多言語多文化に対する基礎的な知識を有し、かつ一層の探究心を有する者。
- (3) 国際社会の中で活躍するための積極的で柔軟な適応能力を有する者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 読解力、会話力、表現力、思考力などにおいて、外国語による高度な運用能力を有する者。
- (2) 多言語多文化に対する専門的知識と理解力を有する者。
- (3) 国際社会の中で活躍しうる自律的な研究能力と実践力を有する者。

別表第3 教育課程（第4条関係）

省略する。

別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）

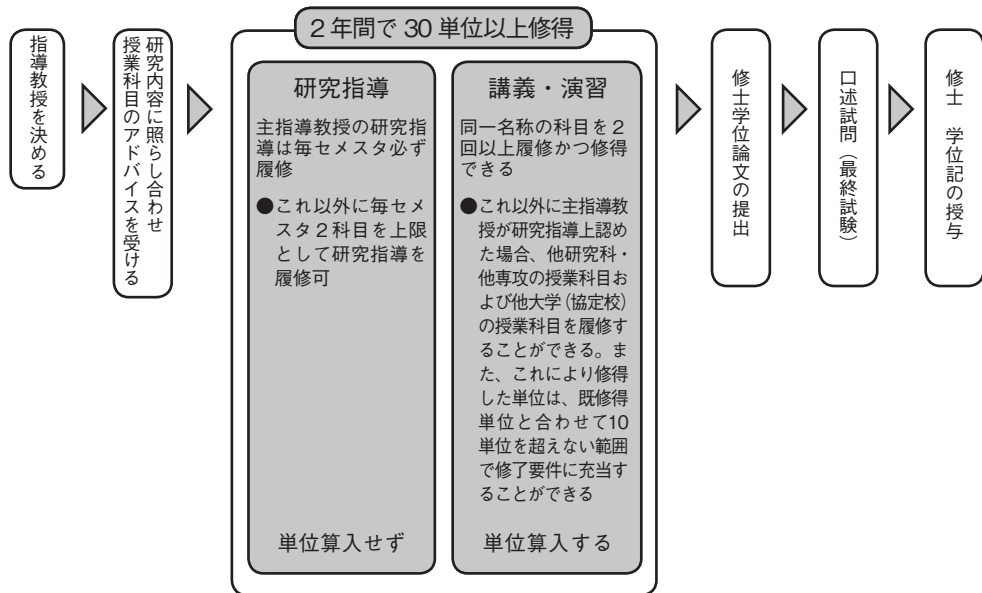
省略する。

別表第5 教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数（第7条関係）

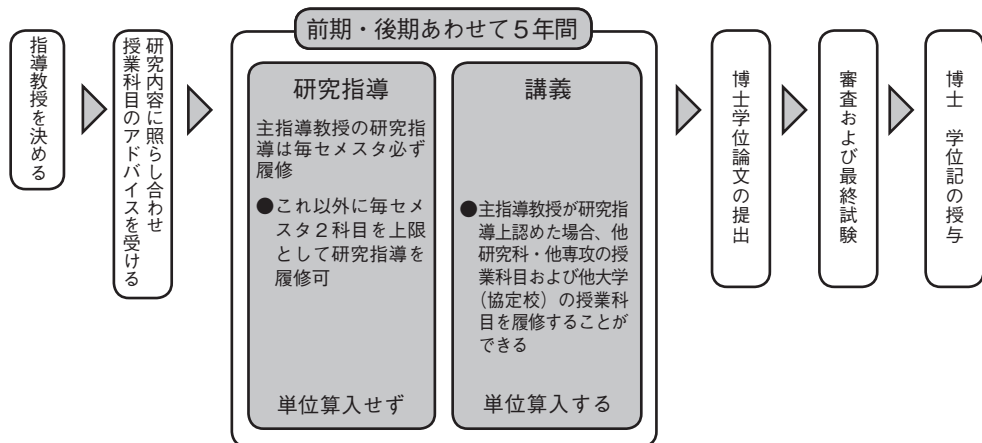
省略する。

哲学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

哲学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
哲学特論 A	2	PHE601	春秋	講義	大河内 泰樹	
哲学特論 B	2	PHE602	春秋	講義	大河内 泰樹	
哲学演習 A	2	PHE603	春秋	演習	稲垣 論	哲学研究指導Ⅵ A/B と共通
哲学演習 B	2	PHE604	春秋			
古代中世哲学研究 A	2	PHE605	春秋	講義	松浦 和也	哲学研究指導Ⅴ A/B と共通
古代中世哲学研究 B	2	PHE606	春秋	講義	松浦 和也	哲学研究指導Ⅴ A/B と共通
古代中世哲学演習 A	2	PHE607	春秋	演習	矢内 義顕	
古代中世哲学演習 B	2	PHE608	春秋			
近世哲学研究 A	2	PHE609	春秋	講義	三重野 清顕	哲学研究指導Ⅳ A/B と共通
近世哲学研究 B	2	PHE610	春秋			
近世哲学演習Ⅰ A	2	PHE611	春秋	演習	土屋 俊	
近世哲学演習Ⅰ B	2	PHE612	春秋			
近世哲学演習Ⅱ A	2	PHE613	春秋	演習	鈴木 泉	
近世哲学演習Ⅱ B	2	PHE614	春秋			
現代哲学研究 A	2	PHE615	春秋	講義	ゼーベル シュテファン	
現代哲学研究 B	2	PHE616	春秋			
現代哲学演習Ⅰ A	2	PHE617	春秋	演習	永井 晋	哲学研究指導Ⅲ A/B と共通
現代哲学演習Ⅰ B	2	PHE618	春秋			
現代哲学演習Ⅱ A	2	PHE619	春秋	演習	河本 英夫	哲学研究指導Ⅷ A/B と共通
現代哲学演習Ⅱ B	2	PHE620	春秋			
論理学特論 A	2	PHE621	春秋	講義	土屋 俊	
論理学特論 B	2	PHE622	春秋			
倫理学特論 A	2	PHE623	春秋	講義	中里 巧	哲学研究指導Ⅰ A/B と共通
倫理学特論 B	2	PHE624	春秋			
比較哲学特論 A	2	PHE625	春秋	講義	相楽 勉	哲学研究指導Ⅱ A/B と共通
比較哲学特論 B	2	PHE626	春秋			
中国哲学研究 A	2	CIB603		講義		本年度休講
中国哲学研究 B	2	CIB604				
日本哲学特論 A	2	PHE627		講義		本年度休講
日本哲学特論 B	2	PHE628				
日本哲学演習 A	2	PHE629		演習		本年度休講
日本哲学演習 B	2	PHE630				
現代哲学特殊演習①	2	PHE631	秋	演習	高野 孝	集中講義
現代哲学特殊演習②	2	PHE632	春	演習	黒田 昭信	集中講義
実践哲学特論 A	2	PHE633	春秋	講義	阿部 又一郎	
実践哲学特論 B	2	PHE634	春秋			

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
哲学研究指導 I A		REG601	春		中里 巧	
哲学研究指導 I B		REG602	秋			
哲学研究指導 II A		REG603	春		相楽 勉	
哲学研究指導 II B		REG604	秋			
哲学研究指導 III A		REG605	春		永井 晋	
哲学研究指導 III B		REG606	秋			
哲学研究指導 IV A		REG607	春		三重野 清 顕	
哲学研究指導 IV B		REG608	秋			
哲学研究指導 V A		REG609	春		松浦 和也	
哲学研究指導 V B		REG610	秋			
哲学研究指導 VI A		REG611	春		稲垣 諭	
哲学研究指導 VI B		REG612	秋			
哲学研究指導 VII A		REG613				本年度休講
哲学研究指導 VII B		REG614				
哲学研究指導 VIII A		REG615	春		河本 英夫	
哲学研究指導 VIII B		REG616	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導						講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング	学期			
哲学特殊研究Ⅰ	4	哲学特殊研究ⅠA	2	PHE701	春秋	講義	河本英夫	哲学研究指導ⅠA/Bと共通
		哲学特殊研究ⅠB	2	PHE702	春秋			
哲学特殊研究Ⅱ	4	哲学特殊研究ⅡA	2	PHE703	春秋	講義	中里巧	哲学研究指導ⅡA/Bと共通
		哲学特殊研究ⅡB	2	PHE704	春秋			
哲学特殊研究Ⅲ	4	哲学特殊研究ⅢA	2	PHE705	春秋	講義	稲垣諭	哲学研究指導ⅢA/Bと共通
		哲学特殊研究ⅢB	2	PHE706	春秋			
哲学特殊研究Ⅳ	4	哲学特殊研究ⅣA	2	PHE707	春秋	講義	三重野清顕	哲学研究指導ⅣA/Bと共通
		哲学特殊研究ⅣB	2	PHE708	春秋			
哲学特殊研究Ⅴ	4	哲学特殊研究ⅤA	2	PHE709	春秋	講義	鈴木泉	
		哲学特殊研究ⅤB	2	PHE710	春秋			
哲学特殊研究Ⅵ	4	哲学特殊研究ⅥA	2	PHE711	春秋	講義	大河内泰樹	
		哲学特殊研究ⅥB	2	PHE712	春秋			
哲学特殊研究Ⅶ	4	哲学特殊研究ⅦA	2	PHE713	春秋	講義	永井晋	哲学研究指導ⅥA/Bと共通
		哲学特殊研究ⅦB	2	PHE714	春秋			
哲学特殊研究Ⅷ	4	哲学特殊研究ⅧA	2	PHE715	春秋	講義	相楽勉	
		哲学特殊研究ⅧB	2	PHE716	春秋			
哲学特殊研究ⅨA	2	哲学特殊研究ⅨA	2	PHE717	春秋	講義	松浦和也	哲学研究指導ⅤA/Bと共通
哲学特殊研究ⅨB	2	哲学特殊研究ⅨB	2	PHE718	春秋			
哲学研究指導Ⅰ		哲学研究指導ⅠA		REG701	春秋		河本英夫	
		哲学研究指導ⅠB		REG702	春秋			
哲学研究指導Ⅱ		哲学研究指導ⅡA		REG703	春秋		中里巧	
		哲学研究指導ⅡB		REG704	春秋			
哲学研究指導Ⅲ		哲学研究指導ⅢA		REG705	春秋		稲垣諭	
		哲学研究指導ⅢB		REG706	春秋			
哲学研究指導Ⅳ		哲学研究指導ⅣA		REG707	春秋		三重野清顕	
		哲学研究指導ⅣB		REG708	春秋			
哲学研究指導Ⅴ		哲学研究指導ⅤA		REG709	春秋		松浦和也	
		哲学研究指導ⅤB		REG710	春秋			
哲学研究指導Ⅵ		哲学研究指導ⅥA		REG711	春秋		永井晋	
		哲学研究指導ⅥB		REG712	春秋			

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

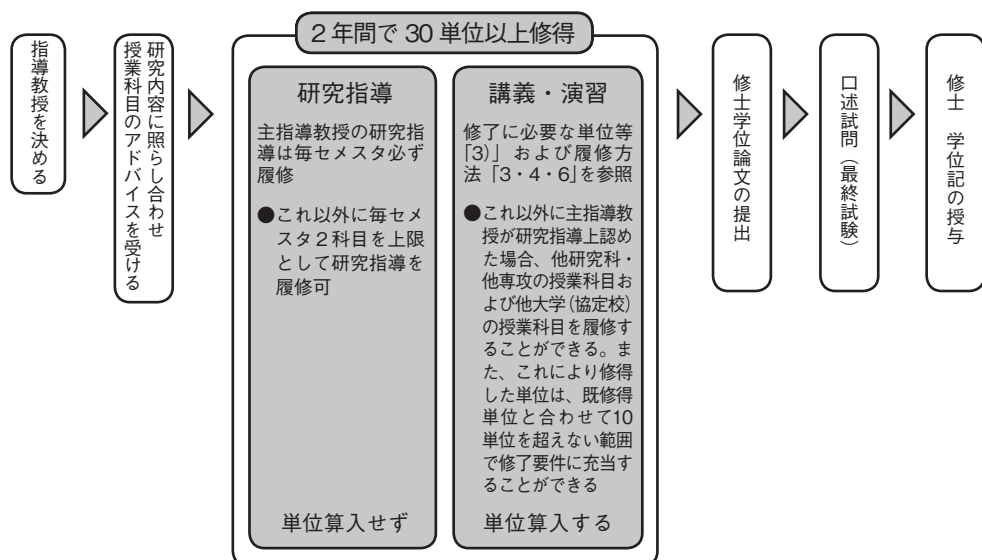
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(研究指導は、指定された講義において行う)。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる。

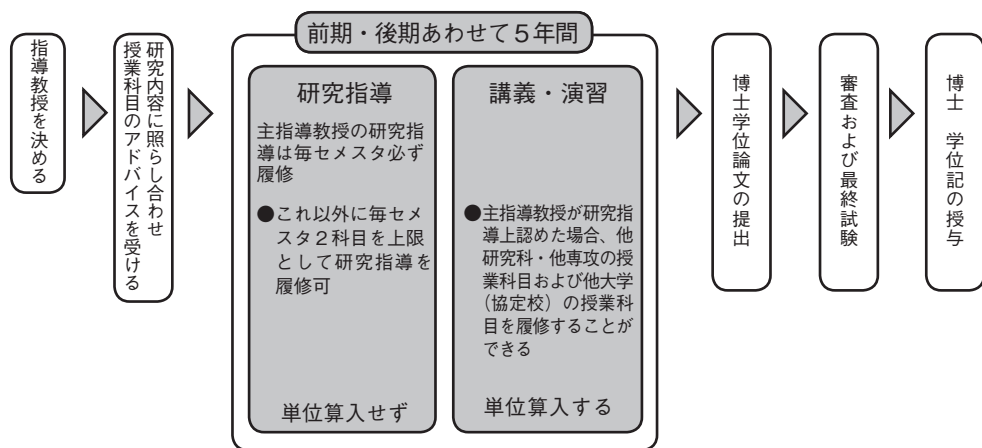
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

インド哲学仏教学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習 の別	担当教員	備考
インド哲学研究ⅠA	2	CIB601	春	講義	沼田一郎	インド哲学研究指導ⅡA/Bと共通
インド哲学研究ⅠB	2	CIB602	秋	演習		
インド哲学研究ⅡA	2	CIB603	春	講義	橋本泰元	インド哲学研究指導ⅢA/Bと共通
インド哲学研究ⅡB	2	CIB604	秋	演習		
インド哲学研究ⅢA	2	CIB605	春	講義	高橋孝信	
インド哲学研究ⅢB	2	CIB606	秋	演習		
インド哲学研究ⅣA	2	CIB607	春	講義	高島淳	インド哲学研究指導ⅠA/Bと共通
インド哲学研究ⅣB	2	CIB608	秋	演習		
インド哲学研究ⅤA	2	CIB609		講義		本年度休講
インド哲学研究ⅤB	2	CIB610		演習		
インド仏教研究ⅠA	2	CIB611	春	講義	岩井昌悟	仏教学研究指導ⅢA/Bと共通
インド仏教研究ⅠB	2	CIB612	秋	演習		
インド仏教研究ⅡA	2	CIB613	春	講義	松村淳子	
インド仏教研究ⅡB	2	CIB614	秋	演習		
インド仏教研究ⅢA	2	CIB615	春	講義	渡辺章悟	仏教学研究指導ⅠA/Bと共通
インド仏教研究ⅢB	2	CIB616	秋	演習		
インド仏教研究ⅣA	2	CIB617	春	講義	山口しのぶ	仏教学研究指導ⅡA/Bと共通
インド仏教研究ⅣB	2	CIB618	秋	演習		
インド仏教研究ⅤA	2	CIB619	春	講義	田中公明	
インド仏教研究ⅤB	2	CIB620	秋	演習		
東アジア仏教研究ⅠA	2	CIB621	春	講義	伊吹敦	仏教学研究指導ⅣA/Bと共通
東アジア仏教研究ⅠB	2	CIB622	秋	演習		
東アジア仏教研究ⅡA	2	CIB623		講義		本年度休講
東アジア仏教研究ⅡB	2	CIB624		演習		
東アジア仏教研究ⅢA	2	CIB625	春	講義	林田康順	
東アジア仏教研究ⅢB	2	CIB626	秋	演習		
東アジア仏教研究ⅣA	2	CIB627	春	講義	陳継東	
東アジア仏教研究ⅣB	2	CIB628	秋	演習		
インド哲学仏教学特殊演習A	2	CIB629	春	演習	伊藤真	
インド哲学仏教学特殊演習B	2	CIB630	秋	演習		

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の 別	担当教員	備考
インド哲学研究指導ⅠA		REG601				本年度休講
インド哲学研究指導ⅠB		REG602				
インド哲学研究指導ⅡA		REG603	春秋		沼田一郎	
インド哲学研究指導ⅡB		REG604				
インド哲学研究指導ⅢA		REG605	春秋		橋本泰元	
インド哲学研究指導ⅢB		REG606				
仏教学研究指導ⅠA		REG607	春秋		渡辺章悟	
仏教学研究指導ⅠB		REG608				
仏教学研究指導ⅡA		REG609	春秋		山口しのぶ	
仏教学研究指導ⅡB		REG610				
仏教学研究指導ⅢA		REG611	春秋		岩井昌悟	
仏教学研究指導ⅢB		REG612				
仏教学研究指導ⅣA		REG613	春秋		伊吹敦	
仏教学研究指導ⅣB		REG614				

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 「講義」及び「演習」を、在学中それぞれ2単位以上履修・単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」および「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び、単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、研究指導と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」および「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
6. 本専攻では、駒澤大学大学院、大正大学大学院、立正大学大学院、武蔵野大学大学院、国際仏教学大学院大学との間に相互単位履修制度を設けている。詳細は p.57を参照すること。

博士後期課程

授業科目・研究指導							講義・演習の別	担当教員	備考			
領域	2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	組 ナ/バ/リ/フ	学期						
インド哲学領域	インド哲学特殊研究Ⅰ	4	インド哲学特殊研究ⅠA	2	CIB701		講義	橋本泰元	本年度休講			
			インド哲学特殊研究ⅠB	2	CIB702		演習					
	インド哲学特殊研究Ⅱ	4	インド哲学特殊研究ⅡA	2	CIB703	春	講義		沼田一郎	インド哲学研究指導ⅡA/Bと共通		
			インド哲学特殊研究ⅡB	2	CIB704	秋	演習					
	インド哲学特殊研究Ⅲ	4	インド哲学特殊研究ⅢA	2	CIB705	春	講義			渡辺章悟	インド哲学研究指導ⅢA/Bと共通	
			インド哲学特殊研究ⅢB	2	CIB706	秋	演習					
仏教学領域	仏教学特殊研究Ⅰ	4	仏教学特殊研究ⅠA	2	CIB707	春	講義	山口しのぶ			仏教学研究指導ⅠA/Bと共通	
			仏教学特殊研究ⅠB	2	CIB708	秋	演習					
	仏教学特殊研究Ⅱ	4	仏教学特殊研究ⅡA	2	CIB709	春	講義		伊吹敦		仏教学研究指導ⅡA/Bと共通	
			仏教学特殊研究ⅡB	2	CIB710	秋	演習					
	仏教学特殊研究Ⅲ	4	仏教学特殊研究ⅢA	2	CIB711	春	講義			岩井昌悟	仏教学研究指導ⅣA/Bと共通	
			仏教学特殊研究ⅢB	2	CIB712	秋	演習					
	仏教学特殊研究Ⅳ	4	仏教学特殊研究ⅣA	2	CIB713	春	講義				伊吹敦	仏教学研究指導ⅢA/Bと共通
			仏教学特殊研究ⅣB	2	CIB714	秋	演習					
インド哲学研究指導Ⅰ			インド哲学研究指導ⅠA		REG701			本年度休講				
			インド哲学研究指導ⅠB		REG702							
インド哲学研究指導Ⅱ			インド哲学研究指導ⅡA		REG703	春		橋本泰元				
			インド哲学研究指導ⅡB		REG704	秋						
インド哲学研究指導Ⅲ			インド哲学研究指導ⅢA		REG705	春		沼田一郎				
			インド哲学研究指導ⅢB		REG706	秋						
仏教学研究指導Ⅰ			仏教学研究指導ⅠA		REG707	春		渡辺章悟				
			仏教学研究指導ⅠB		REG708	秋						
仏教学研究指導Ⅱ			仏教学研究指導ⅡA		REG709	春		山口しのぶ				
			仏教学研究指導ⅡB		REG710	秋						
仏教学研究指導Ⅲ			仏教学研究指導ⅢA		REG711	春		岩井昌悟				
			仏教学研究指導ⅢB		REG712	秋						
仏教学研究指導Ⅳ			仏教学研究指導ⅣA		REG713	春		伊吹敦				
			仏教学研究指導ⅣB		REG714	秋						

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

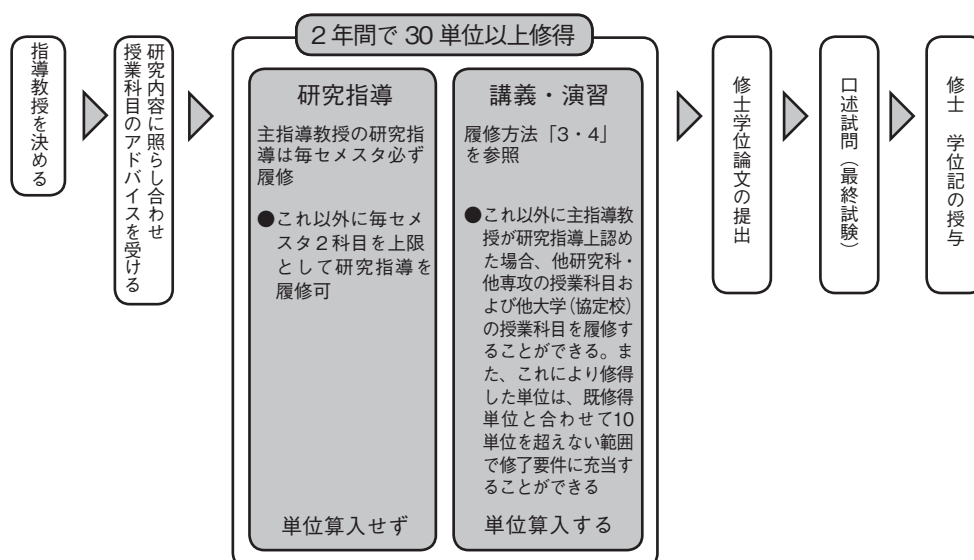
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。
- 本専攻では、駒澤大学大学院、大正大学大学院、立正大学大学院、武蔵野大学大学院、国際仏教学大学院大学との間に相互単位履修制度を設けている。詳細は p.57を参照すること。

注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

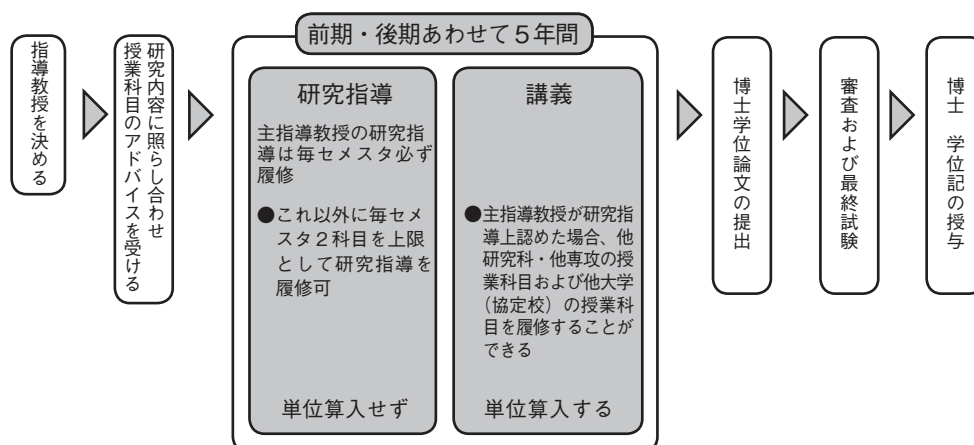
日本文学文化専攻

国文学専攻（2013年度入学生まで）

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

日本文学文化専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	相 関 ナンバリング	学 期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
研究基礎論 A	現代語	2	JLN609	春秋	講義	堀 恵子	
研究基礎論 B	現代語	2	JLN610	春秋	講義		
日本文学文化特論 I A	近現代	2	JLT601		講義		本年度休講
日本文学文化特論 I B	近現代	2	JLT602		講義		
日本文学文化特論 II A	近現代	2	JLT603	春秋	講義	山田吉郎	
日本文学文化特論 II B	近現代	2	JLT604	春秋	講義		
日本文学文化特論 III A	近世	2	JLT605		講義		本年度休講
日本文学文化特論 III B	近世	2	JLT606		講義		
日本文学文化特論 IV A	中世	2	JLT607	春秋	講義	原田香織	日本文学文化研究指導 IX A / B と共通
日本文学文化特論 IV B	中世	2	JLT608	春秋	講義		
日本文学文化特論 V A	中古	2	JLT609	春秋	講義	山中悠希	日本文学文化研究指導 III A / B と共通
日本文学文化特論 V B	中古	2	JLT610	春秋	講義		
日本文学文化特論 VI A	上代	2	JLT611		講義		本年度休講
日本文学文化特論 VI B	上代	2	JLT612		講義		
日本語学特論 I A	古典語	2	JLN601	春秋	講義	阿久澤 忠	
日本語学特論 I B	古典語	2	JLN602	春秋	講義		
日本語学特論 II A	現代語	2	JLN603	春秋	講義	木村 一	日本語学研究指導 III A / B と共通
日本語学特論 II B	現代語	2	JLN604	春秋	講義		
日本文学文化演習 I A	近世	2	JLT613	春秋	演習	高松亮太	日本文学文化研究指導 I A / B と共通
日本文学文化演習 I B	近世	2	JLT614	春秋	演習		
日本文学文化演習 II A	中世	2	JLT615	春秋	演習	高柳祐子	日本文学文化研究指導 X A / B と共通
日本文学文化演習 II B	中世	2	JLT616	春秋	演習		
日本文学文化演習 III A	近世	2	JLT617		演習		本年度休講
日本文学文化演習 III B	近世	2	JLT618		演習		
日本文学文化演習 IV A	近現代	2	JLT619	春秋	演習	野呂芳信	日本文学文化研究指導 IV A / B と共通
日本文学文化演習 IV B	近現代	2	JLT620	春秋	演習		
日本文学文化演習 V A	近現代	2	JLT621	春秋	演習	山本亮介	日本文学文化研究指導 V A / B と共通
日本文学文化演習 V B	近現代	2	JLT622	春秋	演習		
日本文学文化演習 VI A	中古	2	JLT623	春秋	演習	河地 修	日本文学文化研究指導 VI A / B と共通
日本文学文化演習 VI B	中古	2	JLT624	春秋	演習		
日本文学文化演習 VII A	近現代	2	JLT625		演習		本年度休講
日本文学文化演習 VII B	近現代	2	JLT626		演習		
日本文学文化演習 VIII A	上代	2	JLT627	春秋	演習	菊地義裕	日本文学文化研究指導 VIII A / B と共通
日本文学文化演習 VIII B	上代	2	JLT628	春秋	演習		
日本語学演習 I A	古典語	2	JLN605	春秋	演習	岡崎友子	日本語学研究指導 I A / B と共通
日本語学演習 I B	古典語	2	JLN606	春秋	演習		
日本語学演習 II A	現代語	2	JLN607	春秋	演習	三宅和子	日本語学研究指導 II A / B と共通
日本語学演習 II B	現代語	2	JLN608	春秋	演習		
日本美術史 A	日本美術の諸相	2	FAH601	春秋	講義	荒井雄三	
日本美術史 B	日本美術の諸相	2	FAH602	春秋	講義		
比較文学 A	日中比較	2	LIG601	春秋	講義	有澤晶子	日本文学文化研究指導 II A / B と共通
比較文学 B	日中比較	2	LIG602	春秋	講義		
中国文学特論 A	中国古典と訓読	2	CHL601	春秋	講義	合山林太郎	
中国文学特論 B	中国古典と訓読	2	CHL602	春秋	講義		

授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	番号	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
日本文学文化研究指導ⅠA	近世文学文化研究		REG601	春		高松 亮太	
日本文学文化研究指導ⅠB	近世文学文化研究		REG602	秋			
日本文学文化研究指導ⅡA	比較文学文化研究		REG603	春		有澤 晶子	
日本文学文化研究指導ⅡB	比較文学文化研究		REG604	秋			
日本文学文化研究指導ⅢA	近世文学文化研究		REG605	春		山中 悠希	
日本文学文化研究指導ⅢB	近世文学文化研究		REG606	秋			
日本文学文化研究指導ⅣA	近現代文学文化研究		REG607	春		野呂 芳信	
日本文学文化研究指導ⅣB	近現代文学文化研究		REG608	秋			
日本文学文化研究指導ⅤA	近現代文学文化研究		REG609	春		山本 亮介	
日本文学文化研究指導ⅤB	近現代文学文化研究		REG610	秋			
日本文学文化研究指導ⅥA	中古文学文化研究		REG611	春		河地 修	
日本文学文化研究指導ⅥB	中古文学文化研究		REG612	秋			
日本文学文化研究指導ⅦA	近現代文学文化研究		REG613				本年度休講
日本文学文化研究指導ⅦB	近現代文学文化研究		REG614				
日本文学文化研究指導ⅧA	上代文学文化研究		REG615	春		菊地 義裕	
日本文学文化研究指導ⅧB	上代文学文化研究		REG616	秋			
日本文学文化研究指導ⅨA	中世文学文化研究		REG617	春		原田 香織	
日本文学文化研究指導ⅨB	中世文学文化研究		REG618	秋			
日本文学文化研究指導ⅩA	中世文学文化研究		REG625	春		高柳 祐子	
日本文学文化研究指導ⅩB	中世文学文化研究		REG626	秋			
日本語学研究指導ⅠA	古典語研究		REG619	春		岡崎 友子	
日本語学研究指導ⅠB	古典語研究		REG620	秋			
日本語学研究指導ⅡA	現代語研究		REG621	春		三宅 和子	
日本語学研究指導ⅡB	現代語研究		REG622	秋			
日本語学研究指導ⅢA	現代語研究		REG623	春		木村 一	
日本語学研究指導ⅢB	現代語研究		REG624	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導										講義・演習の別	担当教員	備考
2013年度以前 入学生適用	単位	2014年度 入学生適用	サブ タイトル	単位	2015年度以降 入学生適用	サブ タイトル	単位	相 対ナンバリング	学期			
国文学特殊研究Ⅰ	4	日本文学文化特殊研究Ⅰ	日中比較	4	日本文学文化特殊研究ⅠA 日本文学文化特殊研究ⅠB	日中比較 日中比較	2 2	JLT701 JLT702	春秋	講義	有澤 晶子	日本文学文化研究指導Ⅱ A/Bと共通
国文学特殊研究Ⅱ	4	日本文学文化特殊研究Ⅱ	近現代	4	日本文学文化特殊研究ⅡA 日本文学文化特殊研究ⅡB	近現代 近現代	2 2	JLT703 JLT704	春秋	講義	山田 吉郎	
国文学特殊研究Ⅲ	4	日本文学文化特殊研究Ⅲ	中世	4	日本文学文化特殊研究ⅢA 日本文学文化特殊研究ⅢB	中世 中世	2 2	JLT705 JLT706		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅳ	4	日本文学文化特殊研究Ⅳ	中世	4	日本文学文化特殊研究ⅣA 日本文学文化特殊研究ⅣB	中世 中世	2 2	JLT707 JLT708	春秋	講義	原田 香織	日本文学文化研究指導Ⅸ A/Bと共通
国文学特殊研究Ⅴ	4	日本文学文化特殊研究Ⅴ	中古	4	日本文学文化特殊研究ⅤA 日本文学文化特殊研究ⅤB	中古 中古	2 2	JLT709 JLT710		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅵ	4	日本文学文化特殊研究Ⅵ	上代	4	日本文学文化特殊研究ⅥA 日本文学文化特殊研究ⅥB	上代 上代	2 2	JLT711 JLT712		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅶ	4	日本文学文化特殊研究Ⅶ	近世	4	日本文学文化特殊研究ⅦA 日本文学文化特殊研究ⅦB	近世 近世	2 2	JLT713 JLT714	春秋	講義	高松 亮太	日本文学文化研究指導Ⅰ A/Bと共通
国文学特殊研究Ⅷ	4	日本文学文化特殊研究Ⅷ	近現代	4	日本文学文化特殊研究ⅧA 日本文学文化特殊研究ⅧB	近現代 近現代	2 2	JLT715 JLT716		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅸ	4	日本文学文化特殊研究Ⅸ	近世	4	日本文学文化特殊研究ⅨA 日本文学文化特殊研究ⅨB	近世 近世	2 2	JLT717 JLT718		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅹ	4	日本文学文化特殊研究Ⅹ	近現代	4	日本文学文化特殊研究ⅩA 日本文学文化特殊研究ⅩB	近現代 近現代	2 2	JLT719 JLT720	春秋	講義	石田 仁志	日本文学文化研究指導Ⅳ A/Bと共通
国文学特殊研究Ⅺ	4	日本文学文化特殊研究Ⅺ	近現代	4	日本文学文化特殊研究ⅪA 日本文学文化特殊研究ⅪB	近現代 近現代	2 2	JLT721 JLT722		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅻ	4	日本文学文化特殊研究Ⅻ	中古	4	日本文学文化特殊研究ⅫA 日本文学文化特殊研究ⅫB	中古 中古	2 2	JLT723 JLT724	春秋	講義	河地 修	日本文学文化研究指導Ⅵ A/Bと共通
国文学特殊研究Ⅼ	4	日本文学文化特殊研究Ⅼ	近現代	4	日本文学文化特殊研究ⅬA 日本文学文化特殊研究ⅬB	近現代 近現代	2 2	JLT725 JLT726		講義		本年度休講
国文学特殊研究Ⅽ	4	日本文学文化特殊研究Ⅽ	上代	4	日本文学文化特殊研究ⅭA 日本文学文化特殊研究ⅭB	上代 上代	2 2	JLT727 JLT728	春秋	講義	菊地 義裕	日本文学文化研究指導Ⅲ A/Bと共通
国語学特殊研究Ⅰ	4	日本語学特殊研究Ⅰ	古典語	4	日本語学特殊研究ⅠA 日本語学特殊研究ⅠB	古典語 古典語	2 2	JLN701 JLN702	春秋	講義	阿久澤 忠	
国語学特殊研究Ⅱ	4	日本語学特殊研究Ⅱ	古典語	4	日本語学特殊研究ⅡA 日本語学特殊研究ⅡB	古典語 古典語	2 2	JLN703 JLN704	春秋	講義	岡崎 友子	日本語学研究指導Ⅰ A/Bと共通
国語学特殊研究Ⅲ	4	日本語学特殊研究Ⅲ	現代語	4	日本語学特殊研究ⅢA 日本語学特殊研究ⅢB	現代語 現代語	2 2	JLN705 JLN706		講義		本年度休講
国語学特殊研究Ⅳ	4	日本語学特殊研究Ⅳ	現代語	4	日本語学特殊研究ⅣA 日本語学特殊研究ⅣB	現代語 現代語	2 2	JLN707 JLN708	春秋	講義	三宅 和子	日本語学研究指導Ⅱ A/Bと共通

授業科目・研究指導										講義・演習の別	担当教員	備考
2013年度以前 入学生適用	単位	2014年度 入学生適用	サブ タイトル	単位	2015年度以降 入学生適用	サブ タイトル	単位	相 ナシ/有	学 期			
国文学研究指導Ⅰ		日本文学文化研究指導Ⅰ	近世文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅠA 日本文学文化研究指導ⅠB	近世文学文化研究 近世文学文化研究		REG701 REG702	春 秋		高松亮太	
国文学研究指導Ⅱ		日本文学文化研究指導Ⅱ	比較文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅡA 日本文学文化研究指導ⅡB	比較文学文化研究 比較文学文化研究		REG703 REG704	春 秋		有澤晶子	
国文学研究指導Ⅲ		日本文学文化研究指導Ⅲ	近世文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅢA 日本文学文化研究指導ⅢB	近世文学文化研究 近世文学文化研究		REG705 REG706				本年度休講
国文学研究指導Ⅳ		日本文学文化研究指導Ⅳ	近現代文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅣA 日本文学文化研究指導ⅣB	近現代文学文化研究 近現代文学文化研究		REG707 REG708	春 秋		石田仁志	2018年度以前入学生のみ履修可
国文学研究指導Ⅴ		日本文学文化研究指導Ⅴ	近現代文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅤA 日本文学文化研究指導ⅤB	近現代文学文化研究 近現代文学文化研究		REG709 REG710				本年度休講
国文学研究指導Ⅵ		日本文学文化研究指導Ⅵ	中古文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅥA 日本文学文化研究指導ⅥB	中古文学文化研究 中古文学文化研究		REG711 REG712	春 秋		河地修	
国文学研究指導Ⅶ		日本文学文化研究指導Ⅶ	近現代文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅦA 日本文学文化研究指導ⅦB	近現代文学文化研究 近現代文学文化研究		REG713 REG714				本年度休講
国文学研究指導Ⅷ		日本文学文化研究指導Ⅷ	上代文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅧA 日本文学文化研究指導ⅧB	上代文学文化研究 上代文学文化研究		REG715 REG716	春 秋		菊地義裕	
国文学研究指導Ⅸ		日本文学文化研究指導Ⅸ	中世文学 文化研究		日本文学文化研究指導ⅨA 日本文学文化研究指導ⅨB	中世文学文化研究 中世文学文化研究		REG717 REG718	春 秋		原田香織	
国語学研究指導Ⅰ		日本語学研究指導Ⅰ	古典語研究		日本語学研究指導ⅠA 日本語学研究指導ⅠB	古典語研究 古典語研究		REG719 REG720	春 秋		岡崎友子	
国語学研究指導Ⅱ		日本語学研究指導Ⅱ	現代語研究		日本語学研究指導ⅡA 日本語学研究指導ⅡB	現代語研究 現代語研究		REG721 REG722	春 秋		三宅和子	

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

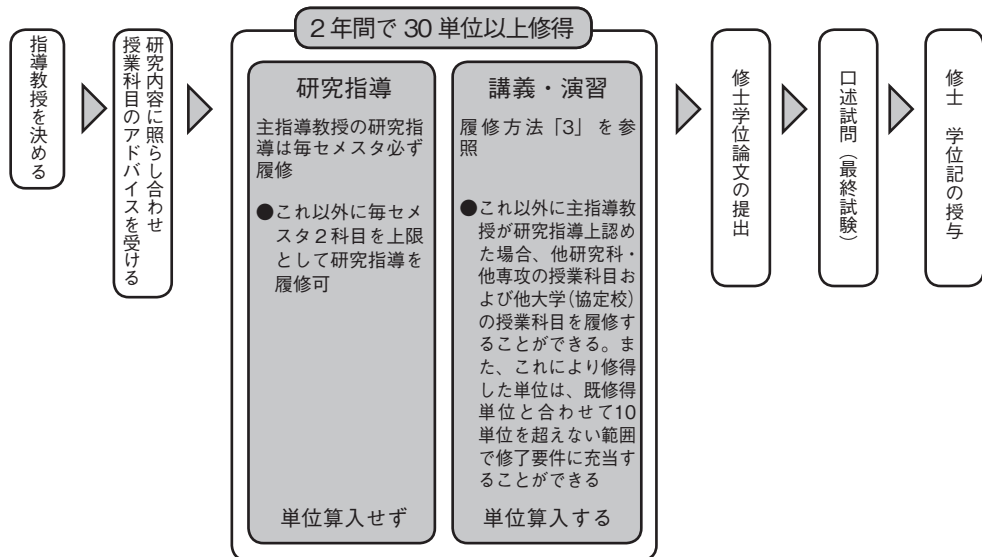
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

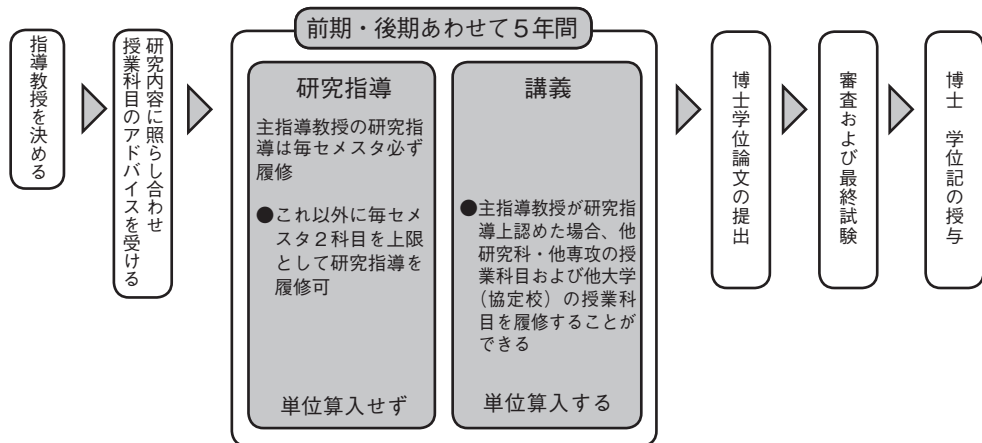
注）通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

中国哲学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

中国哲学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
中国哲学特論Ⅰ①	2	CIB601		講義		本年度休講
中国哲学特論Ⅰ②	2	CIB602		講義		本年度休講
中国哲学特論ⅡA	2	CIB603		講義		本年度休講
中国哲学特論ⅡB	2	CIB604		講義		本年度休講
中国哲学特論ⅢA	2	CIB605	春秋	講義	小路口 聡	
中国哲学特論ⅢB	2	CIB606	春秋	講義	小路口 聡	
中国哲学演習ⅠA	2	CIB607	春秋	演習	白井 順	中国哲学研究指導ⅣA/Bと共通
中国哲学演習ⅠB	2	CIB608	春秋	演習	白井 順	中国哲学研究指導ⅣA/Bと共通
中国哲学演習ⅡA	2	CIB609	春秋	演習	小路口 聡	中国哲学研究指導ⅢA/Bと共通
中国哲学演習ⅡB	2	CIB610	春秋	演習	小路口 聡	中国哲学研究指導ⅢA/Bと共通
中国哲学演習ⅢA	2	CIB611		演習		本年度休講
中国哲学演習ⅢB	2	CIB612		演習		本年度休講
中国哲学研究ⅠA	2	CIB613	春秋	講義	中村 聡	
中国哲学研究ⅠB	2	CIB614	春秋	講義	中村 聡	
中国哲学研究ⅡA	2	CIB615		講義		本年度休講
中国哲学研究ⅡB	2	CIB616		講義		本年度休講
中国哲学研究ⅢA	2	CIB617		講義		本年度休講
中国哲学研究ⅢB	2	CIB618		講義		本年度休講
中国文学特論ⅠA	2	CHL601	春秋	講義	野間 信幸	中国哲学研究指導ⅡA/Bと共通
中国文学特論ⅠB	2	CHL602	春秋	講義	野間 信幸	中国哲学研究指導ⅡA/Bと共通
中国文学特論ⅡA	2	CHL603		講義		本年度休講
中国文学特論ⅡB	2	CHL604		講義		本年度休講
中国文学特論ⅢA	2	CHL609	春秋	講義	有澤 晶子	
中国文学特論ⅢB	2	CHL610	春秋	講義	有澤 晶子	
中国文学演習ⅠA	2	CHL605		演習		本年度休講
中国文学演習ⅠB	2	CHL606		演習		本年度休講
中国文学演習ⅡA	2	CHL607		演習		本年度休講
中国文学演習ⅡB	2	CHL608		演習		本年度休講
中国語学研究ⅠA	2	LIN601	春秋	講義	野間 信幸	
中国語学研究ⅠB	2	LIN602	春秋	講義	野間 信幸	
中国語学研究ⅡA	2	LIN603	春秋	講義	橋本 恭子	
中国語学研究ⅡB	2	LIN604	春秋	講義	橋本 恭子	
哲学特論A	2	PHE601	春秋	講義	大河内 泰樹	
哲学特論B	2	PHE602	春秋	講義	大河内 泰樹	
比較哲学特論A	2	PHE603	春秋	講義	相楽 勉	
比較哲学特論B	2	PHE604	春秋	講義	相楽 勉	
仏教学特論A	2	CIB619	春秋	講義	陳 継東	
仏教学特論B	2	CIB620	春秋	講義	陳 継東	
東洋史学特論A	2	HAA601	春秋	講義	藤谷 浩悦	
東洋史学特論B	2	HAA602	春秋	講義	藤谷 浩悦	
文献研究(東洋)A	2	HAA603		講義		本年度休講
文献研究(東洋)B	2	HAA604		講義		本年度休講

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備考
中国哲学研究指導ⅠA		REG601				本年度休講
中国哲学研究指導ⅠB		REG602				
中国哲学研究指導ⅡA		REG603	春		野 間 信 幸	
中国哲学研究指導ⅡB		REG604	秋			
中国哲学研究指導ⅢA		REG605	春		小 路 口 聡	
中国哲学研究指導ⅢB		REG606	秋			
中国哲学研究指導ⅣA		REG607	春		白 井 順	
中国哲学研究指導ⅣB		REG608	秋			
中国哲学研究指導ⅤA		REG609				本年度休講
中国哲学研究指導ⅤB		REG610				

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
中国哲学特殊研究ⅠA	2	CIB701	春秋	講義	野間 信幸	中国哲学研究指導ⅠA／Bと共通
中国哲学特殊研究ⅠB	2	CIB702	春秋	講義		
中国哲学特殊研究ⅡA	2	CIB703		講義		本年度休講
中国哲学特殊研究ⅡB	2	CIB704		講義		
中国哲学特殊研究ⅢA	2	CIB705	春秋	講義	小路口 聡	中国哲学研究指導ⅢA／Bと共通
中国哲学特殊研究ⅢB	2	CIB706	春秋	講義		
中国哲学特殊研究ⅣA	2	CIB707		講義		本年度休講
中国哲学特殊研究ⅣB	2	CIB708		講義		
中国哲学特殊研究ⅤA	2	CIB709	春秋	講義	白井 順	中国哲学研究指導ⅤA／Bと共通
中国哲学特殊研究ⅤB	2	CIB710	春秋	講義		
中国哲学研究指導ⅠA		REG701	春秋		野間 信幸	
中国哲学研究指導ⅠB		REG702	春秋			
中国哲学研究指導ⅡA		REG703				本年度休講
中国哲学研究指導ⅡB		REG704				
中国哲学研究指導ⅢA		REG705	春秋		小路口 聡	
中国哲学研究指導ⅢB		REG706	春秋			
中国哲学研究指導ⅣA		REG707				本年度休講
中国哲学研究指導ⅣB		REG708				
中国哲学研究指導ⅤA		REG709	春秋		白井 順	
中国哲学研究指導ⅤB		REG710	春秋			

修了に必要な単位等

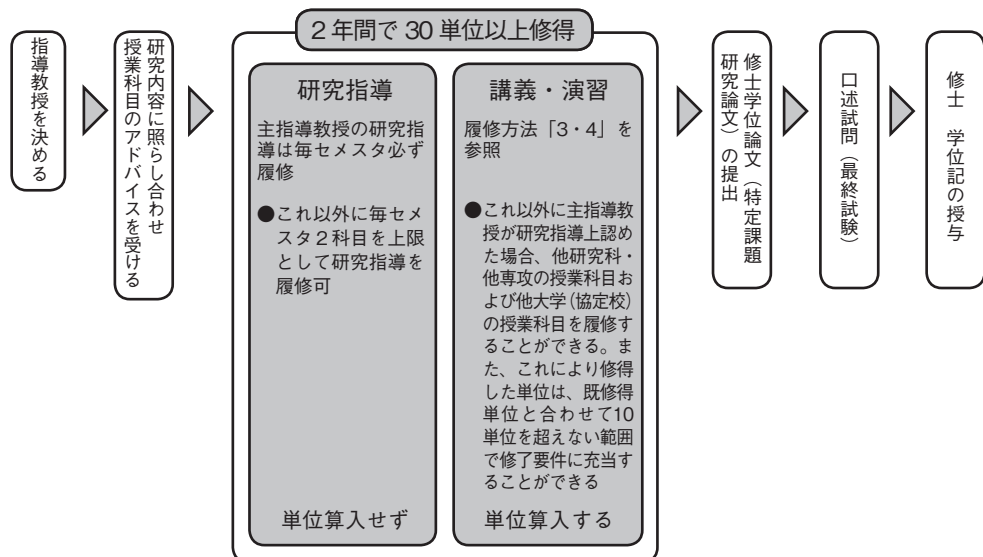
主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

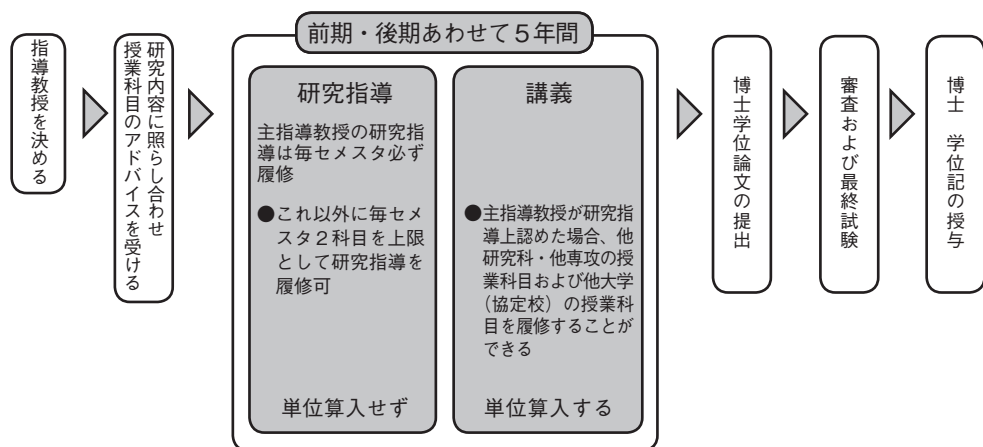
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

英文学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

英 文 学 専 攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備考
英 文 学 演 習 I A	2	LIE601	春	演 習	石和田 昌 利	英文学研究指導 I A/Bと共通
英 文 学 演 習 I B	2	LIE602	秋			
英 文 学 演 習 II A	2	LIE603	春	演 習	田 中 一 隆	英文学研究指導 II A/Bと共通
英 文 学 演 習 II B	2	LIE604	秋			
米 文 学 演 習 A	2	LIE605	春	演 習	余 田 真 也	米文学研究指導 I A/Bと共通
米 文 学 演 習 B	2	LIE606	秋			
比 較 文 学 演 習 A	2	LIE607		演 習		本年度休講
比 較 文 学 演 習 B	2	LIE608				
英 語 学 演 習 A	2	ENL601	春	演 習	赤 須 薫	英語学研究指導 I A/Bと共通
英 語 学 演 習 B	2	ENL602	秋			
英 文 学 特 論 I A	2	LIE609	春	講 義	佐 藤 泰 人	
英 文 学 特 論 I B	2	LIE610	秋			
英 文 学 特 論 II A	2	LIE611		講 義		本年度休講
英 文 学 特 論 II B	2	LIE612				
英 文 学 特 論 III A	2	LIE613		講 義		本年度休講
英 文 学 特 論 III B	2	LIE614				
米 文 学 特 論 A	2	LIE615	春	講 義	北 原 妙 子	米文学研究指導 II A/Bと共通
米 文 学 特 論 B	2	LIE616	秋			
英 語 学 特 論 I A	2	ENL603	春	講 義	波 多 野 満 雄	英語学研究指導 II A/Bと共通
英 語 学 特 論 I B	2	ENL604	秋			
英 語 学 特 論 II A	2	ENL605	春	講 義	井 上 亜 依	
英 語 学 特 論 II B	2	ENL606	秋			
英 語 学 特 論 III A	2	ENL607	春	講 義	テイモン ニューフィールズ	
英 語 学 特 論 III B	2	ENL608	秋			
英 文 学 思 想 A	2	LIE621		講 義		本年度休講
英 文 学 思 想 B	2	LIE622				
米 文 学 思 想 A	2	LIE623		講 義		本年度休講
米 文 学 思 想 B	2	LIE624				

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備 考
英 文 学 研 究 指 導 I A		REG601	春		石和田 昌 利	
英 文 学 研 究 指 導 I B		REG602	秋			
英 文 学 研 究 指 導 II A		REG603	春		田 中 一 隆	
英 文 学 研 究 指 導 II B		REG604	秋			
米 文 学 研 究 指 導 I A		REG605	春		余 田 真 也	
米 文 学 研 究 指 導 I B		REG606	秋			
米 文 学 研 究 指 導 II A		REG607	春		北 原 妙 子	
米 文 学 研 究 指 導 II B		REG608	秋			
比 較 文 学 研 究 指 導 A		REG609				本年度休講
比 較 文 学 研 究 指 導 B		REG610				
英 語 学 研 究 指 導 I A		REG611	春		赤 須 薫	
英 語 学 研 究 指 導 I B		REG612	秋			
英 語 学 研 究 指 導 II A		REG613	春		波多野 満 雄	
英 語 学 研 究 指 導 II B		REG614	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備考
英文学特殊研究ⅠA	2	LIE701	春	講義	石和田 昌 利	英文学研究指導ⅠA／Bと共通
英文学特殊研究ⅠB	2	LIE702	秋			
英文学特殊研究ⅡA	2	LIE703	春	講義	田 中 一 隆	英文学研究指導ⅡA／Bと共通
英文学特殊研究ⅡB	2	LIE704	秋			
英文学特殊研究ⅢA	2	LIE705		講義		本年度休講
英文学特殊研究ⅢB	2	LIE706				
米文学特殊研究ⅠA	2	LIE707	春	講義	余 田 真 也	米文学研究指導ⅠA／Bと共通
米文学特殊研究ⅠB	2	LIE708	秋			
米文学特殊研究ⅡA	2	LIE709	春	講義	北 原 妙 子	米文学研究指導ⅡA／Bと共通
米文学特殊研究ⅡB	2	LIE710	秋			
比較文学特殊研究A	2	LIE711		講義		本年度休講
比較文学特殊研究B	2	LIE712				
英語学特殊研究ⅠA	2	ENL701	春	講義	赤 須 薫	英語学研究指導ⅠA／Bと共通
英語学特殊研究ⅠB	2	ENL702	秋			
英語学特殊研究ⅡA	2	ENL703	春	講義	波多野 満 雄	英語学研究指導ⅡA／Bと共通
英語学特殊研究ⅡB	2	ENL704	秋			
英文学研究指導ⅠA		REG701	春		石和田 昌 利	
英文学研究指導ⅠB		REG702	秋			
英文学研究指導ⅡA		REG703	春		田 中 一 隆	
英文学研究指導ⅡB		REG704	秋			
米文学研究指導ⅠA		REG705	春		余 田 真 也	
米文学研究指導ⅠB		REG706	秋			
米文学研究指導ⅡA		REG707	春		北 原 妙 子	
米文学研究指導ⅡB		REG708	秋			
比較文学研究指導A		REG709				本年度休講
比較文学研究指導B		REG710				
英語学研究指導ⅠA		REG711	春		赤 須 薫	
英語学研究指導ⅠB		REG712	秋			
英語学研究指導ⅡA		REG713	春		波多野 満 雄	
英語学研究指導ⅡB		REG714	秋			

修了に必要な単位等

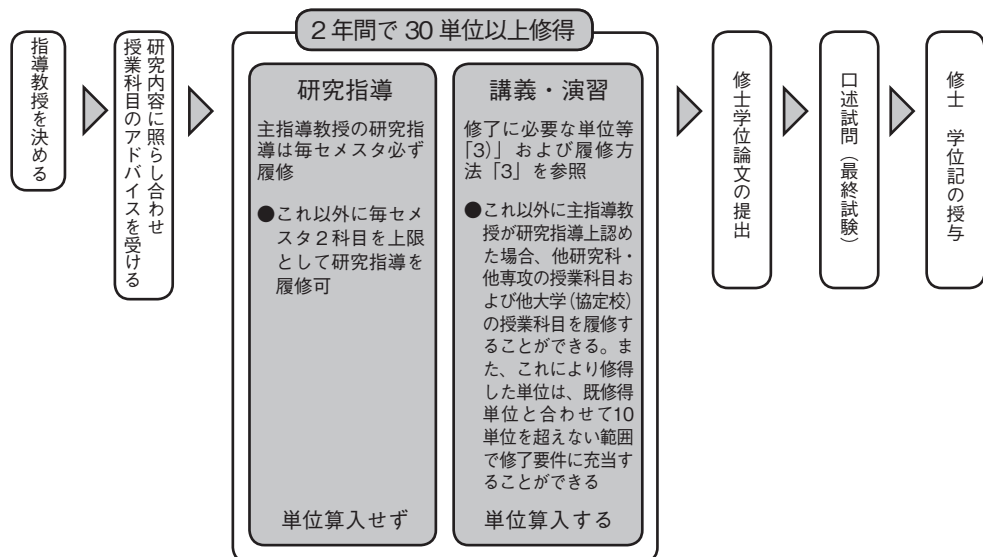
主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

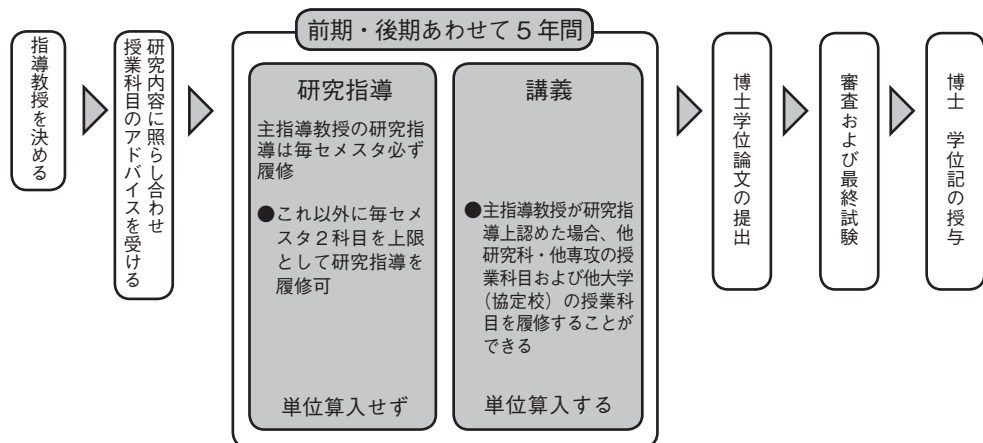
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

史学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

史学専攻

博士前期課程

授業科目	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
日本史学特論ⅠA	2	JPH601	春秋	講義	森 公 章	
日本史学特論ⅠB	2	JPH602	春秋	講義	森 公 章	
日本史学特論ⅡA	2	JPH603	春秋	講義	木 下 聡	
日本史学特論ⅡB	2	JPH604	春秋	講義	木 下 聡	
日本史学特論ⅢA	2	JPH605	春秋	講義	朴 澤 直 秀	
日本史学特論ⅢB	2	JPH606	春秋	講義	朴 澤 直 秀	
日本史学特論ⅣA	2	JPH607	春秋	講義	岩 下 哲 典	
日本史学特論ⅣB	2	JPH608	春秋	講義	岩 下 哲 典	
日本史学特論ⅤA	2	JPH609	春秋	講義	大豆生田 稔	
日本史学特論ⅤB	2	JPH610	春秋	講義	大豆生田 稔	
日本史学演習ⅠA	2	JPH611	春秋	演習	森 公 章	日本史学研究指導ⅠA/Bと共通
日本史学演習ⅠB	2	JPH612	春秋	演習	森 公 章	日本史学研究指導ⅠA/Bと共通
日本史学演習ⅡA	2	JPH613	春秋	演習	木 下 聡	日本史学研究指導ⅡA/Bと共通
日本史学演習ⅡB	2	JPH614	春秋	演習	木 下 聡	日本史学研究指導ⅡA/Bと共通
日本史学演習ⅢA	2	JPH615	春秋	演習	朴 澤 直 秀	日本史学研究指導ⅢA/Bと共通
日本史学演習ⅢB	2	JPH616	春秋	演習	朴 澤 直 秀	日本史学研究指導ⅢA/Bと共通
日本史学演習ⅣA	2	JPH617	春秋	演習	岩 下 哲 典	日本史学研究指導ⅣA/Bと共通
日本史学演習ⅣB	2	JPH618	春秋	演習	岩 下 哲 典	日本史学研究指導ⅣA/Bと共通
日本史学演習ⅤA	2	JPH619	春秋	演習	大豆生田 稔	日本史学研究指導ⅤA/Bと共通
日本史学演習ⅤB	2	JPH620	春秋	演習	大豆生田 稔	日本史学研究指導ⅤA/Bと共通
東洋史学特論ⅠA	2	HAA603	春秋	講義	西 村 陽 子	
東洋史学特論ⅠB	2	HAA604	春秋	講義	西 村 陽 子	
東洋史学特論ⅡA	2	HAA605	春秋	講義	藤 谷 浩 悦	
東洋史学特論ⅡB	2	HAA606	春秋	講義	藤 谷 浩 悦	
東洋史学特論ⅢA	2	HAA607		講義		本年度休講
東洋史学特論ⅢB	2	HAA608		講義		本年度休講
東洋史学演習ⅠA	2	HAA609	春秋	演習	西 村 陽 子	東洋史学研究指導ⅠA/Bと共通
東洋史学演習ⅠB	2	HAA610	春秋	演習	西 村 陽 子	東洋史学研究指導ⅠA/Bと共通
東洋史学演習ⅡA	2	HAA611		演習		本年度休講
東洋史学演習ⅡB	2	HAA612		演習		本年度休講
東洋史学演習ⅢA	2	HAA613		演習		本年度休講
東洋史学演習ⅢB	2	HAA614		演習		本年度休講
西洋史学特論ⅠA	2	HEA603	春秋	講義	長谷川 岳 男	
西洋史学特論ⅠB	2	HEA604	春秋	講義	長谷川 岳 男	
西洋史学特論ⅡA	2	HEA605	春秋	講義	鈴 木 道 也	
西洋史学特論ⅡB	2	HEA606	春秋	講義	鈴 木 道 也	
西洋史学特論ⅢA	2	HEA607	春秋	講義	後 藤 はる美	西洋史学研究指導ⅢA/Bと共通
西洋史学特論ⅢB	2	HEA608	春秋	講義	後 藤 はる美	西洋史学研究指導ⅢA/Bと共通
西洋史学特論ⅣA	2	HEA615	春秋	講義	村 田 奈々子	
西洋史学特論ⅣB	2	HEA616	春秋	講義	村 田 奈々子	
西洋史学演習ⅠA	2	HEA609	春秋	演習	長谷川 岳 男	西洋史学研究指導ⅠA/Bと共通
西洋史学演習ⅠB	2	HEA610	春秋	演習	長谷川 岳 男	西洋史学研究指導ⅠA/Bと共通
西洋史学演習ⅡA	2	HEA611	春秋	演習	鈴 木 道 也	西洋史学研究指導ⅡA/Bと共通
西洋史学演習ⅡB	2	HEA612	春秋	演習	鈴 木 道 也	西洋史学研究指導ⅡA/Bと共通
西洋史学演習ⅢA	2	HEA613	春秋	演習	後 藤 はる美	西洋史学研究指導ⅢA/Bと共通
西洋史学演習ⅢB	2	HEA614	春秋	演習	後 藤 はる美	西洋史学研究指導ⅢA/Bと共通
西洋史学演習ⅣA	2	HEA617	春秋	演習	村 田 奈々子	西洋史学研究指導ⅣA/Bと共通
西洋史学演習ⅣB	2	HEA618	春秋	演習	村 田 奈々子	西洋史学研究指導ⅣA/Bと共通
考古学特論A	2	ARC601	春秋	講義	高 島 英 之	
考古学特論B	2	ARC602	春秋	講義	高 島 英 之	
文献研究(日本)A	2	JPH621	春秋	講義	青 木 直 己	
文献研究(日本)B	2	JPH622	春秋	講義	青 木 直 己	
文献研究(東洋)A	2	HAA601		講義		本年度休講
文献研究(東洋)B	2	HAA602		講義		本年度休講
文献研究(西洋)A	2	HEA601	春秋	講義	鈴 木 道 也	
文献研究(西洋)B	2	HEA602	春秋	講義	高 嶋 純 夫	
史料管理学	4	HSG601		講義		国文学研究資料館における研修(集中講義形式)

研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備考
日本史学研究指導 I A		REG601	春		森 公 章	
日本史学研究指導 I B		REG602	秋			
日本史学研究指導 II A		REG603	春		木 下 聡	
日本史学研究指導 II B		REG604	秋			
日本史学研究指導 III A		REG605	春		朴 澤 直 秀	
日本史学研究指導 III B		REG606	秋			
日本史学研究指導 IV A		REG607	春		岩 下 哲 典	
日本史学研究指導 IV B		REG608	秋			
日本史学研究指導 V A		REG609	春		大豆生田 稔	
日本史学研究指導 V B		REG610	秋			
東洋史学研究指導 I A		REG611	春		西 村 陽 子	
東洋史学研究指導 I B		REG612	秋			
東洋史学研究指導 II A		REG613	春		千 葉 正 史	
東洋史学研究指導 II B		REG614	秋			
東洋史学研究指導 III A		REG615				本年度休講
東洋史学研究指導 III B		REG616				
西洋史学研究指導 I A		REG617	春		長谷川 岳 男	
西洋史学研究指導 I B		REG618	秋			
西洋史学研究指導 II A		REG619	春		鈴 木 道 也	
西洋史学研究指導 II B		REG620	秋			
西洋史学研究指導 III A		REG621	春		後 藤 はる美	
西洋史学研究指導 III B		REG622	秋			
西洋史学研究指導 IV A		REG623	春		村 田 奈々子	
西洋史学研究指導 IV B		REG624	秋			

修了に必要な単位等

1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。

2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

3) 下記の①②を満たすこと。

①日本史学コースの者は「日本史学特論 I A・B」～「日本史学特論 V A・B」の10科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

東洋史学コースの者は「東洋史学特論 I A・B」～「東洋史学特論 III A・B」の6科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

西洋史学コースの者は「西洋史学特論 I A・B」～「西洋史学特論 IV A・B」の8科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

②日本史学コースの者は「日本史学演習 I A・B」～「日本史学演習 V A・B」の10科目の中から、8単位以上を修得すること。

東洋史学コースの者は「東洋史学演習 I A・B」～「東洋史学演習 III A・B」の6科目の中から、8単位以上を修得すること。

西洋史学コースの者は「西洋史学演習 I A・B」～「西洋史学演習 IV A・B」の8科目の中から、8単位以上を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。

2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された演習において行う）。

3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。

4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導					講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング			
日本史学特殊研究Ⅰ	4	日本史学特殊研究ⅠA 日本史学特殊研究ⅠB	2 2	JPH701 JPH702	春秋	講義 森 公 章	日本史学研究指導ⅠA/B と共通
日本史学特殊研究Ⅱ	4	日本史学特殊研究ⅡA 日本史学特殊研究ⅡB	2 2	JPH703 JPH704	春秋	講義 木 下 聡	日本史学研究指導ⅡA/B と共通
日本史学特殊研究Ⅲ	4	日本史学特殊研究ⅢA 日本史学特殊研究ⅢB	2 2	JPH705 JPH706	春秋	講義 朴 澤 直 秀	日本史学研究指導ⅢA/B と共通
日本史学特殊研究Ⅳ	4	日本史学特殊研究ⅣA 日本史学特殊研究ⅣB	2 2	JPH707 JPH708	春秋	講義 岩 下 哲 典	日本史学研究指導ⅣA/B と共通
日本史学特殊研究Ⅴ	4	日本史学特殊研究ⅤA 日本史学特殊研究ⅤB	2 2	JPH709 JPH710	春秋	講義 大豆生田 稔	日本史学研究指導ⅤA/B と共通
東洋史学特殊研究Ⅰ	4	東洋史学特殊研究ⅠA 東洋史学特殊研究ⅠB	2 2	HAA701 HAA702	春秋	講義 西 村 陽 子	東洋史学研究指導ⅠA/B と共通
東洋史学特殊研究Ⅱ	4	東洋史学特殊研究ⅡA 東洋史学特殊研究ⅡB	2 2	HAA703 HAA704		講義	本年度休講
東洋史学特殊研究Ⅲ	4	東洋史学特殊研究ⅢA 東洋史学特殊研究ⅢB	2 2	HAA705 HAA706		講義	本年度休講
西洋史学特殊研究Ⅰ	4	西洋史学特殊研究ⅠA 西洋史学特殊研究ⅠB	2 2	HEA701 HEA702	春秋	講義 長谷川 岳 男	西洋史学研究指導ⅠA/B と共通
西洋史学特殊研究Ⅱ	4	西洋史学特殊研究ⅡA 西洋史学特殊研究ⅡB	2 2	HEA703 HEA704	春秋	講義 鈴 木 道 也	西洋史学研究指導ⅡA/B と共通
西洋史学特殊研究Ⅲ	4	西洋史学特殊研究ⅢA 西洋史学特殊研究ⅢB	2 2	HEA705 HEA706		講義	本年度休講
西洋史学特殊研究ⅣA 西洋史学特殊研究ⅣB	2 2	西洋史学特殊研究ⅣA 西洋史学特殊研究ⅣB	2 2	HEA707 HEA708	春秋	講義 村 田 奈々子	西洋史学研究指導ⅣA/B と共通
日本史学研究指導Ⅰ		日本史学研究指導ⅠA 日本史学研究指導ⅠB		REG701 REG702	春秋		森 公 章
日本史学研究指導Ⅱ		日本史学研究指導ⅡA 日本史学研究指導ⅡB		REG703 REG704	春秋		木 下 聡
日本史学研究指導Ⅲ		日本史学研究指導ⅢA 日本史学研究指導ⅢB		REG705 REG706	春秋		朴 澤 直 秀
日本史学研究指導Ⅳ		日本史学研究指導ⅣA 日本史学研究指導ⅣB		REG707 REG708	春秋		岩 下 哲 典
日本史学研究指導Ⅴ		日本史学研究指導ⅤA 日本史学研究指導ⅤB		REG709 REG710	春秋		大豆生田 稔
東洋史学研究指導Ⅰ		東洋史学研究指導ⅠA 東洋史学研究指導ⅠB		REG711 REG712	春秋		西 村 陽 子
東洋史学研究指導Ⅱ		東洋史学研究指導ⅡA 東洋史学研究指導ⅡB		REG713 REG714	春秋		千 葉 正 史
東洋史学研究指導Ⅲ		東洋史学研究指導ⅢA 東洋史学研究指導ⅢB		REG715 REG716			本年度休講
西洋史学研究指導Ⅰ		西洋史学研究指導ⅠA 西洋史学研究指導ⅠB		REG717 REG718	春秋		長谷川 岳 男
西洋史学研究指導Ⅱ		西洋史学研究指導ⅡA 西洋史学研究指導ⅡB		REG719 REG720	春秋		鈴 木 道 也
西洋史学研究指導Ⅲ		西洋史学研究指導ⅢA 西洋史学研究指導ⅢB		REG721 REG722			本年度休講
西洋史学研究指導ⅣA 西洋史学研究指導ⅣB		西洋史学研究指導ⅣA 西洋史学研究指導ⅣB		REG723 REG724	春秋		村 田 奈々子

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

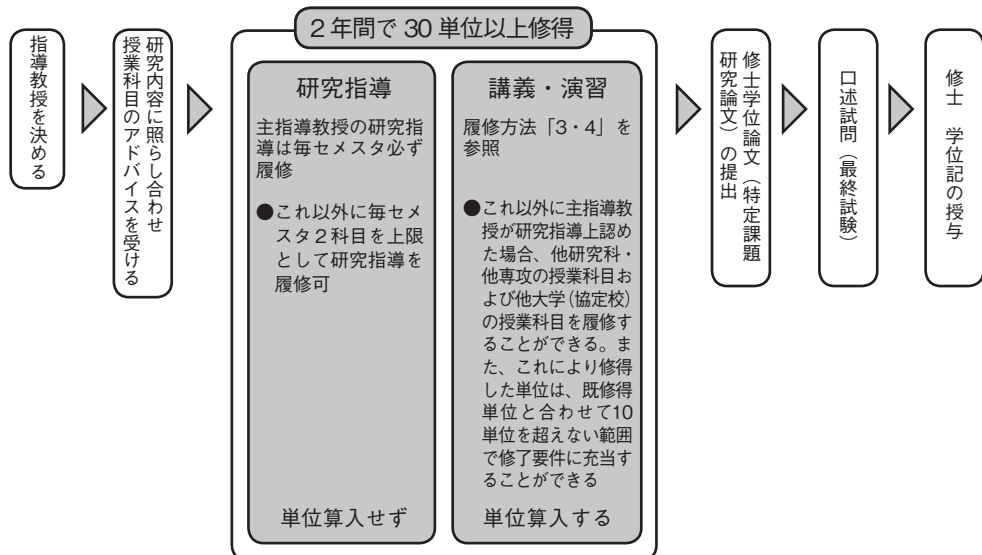
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

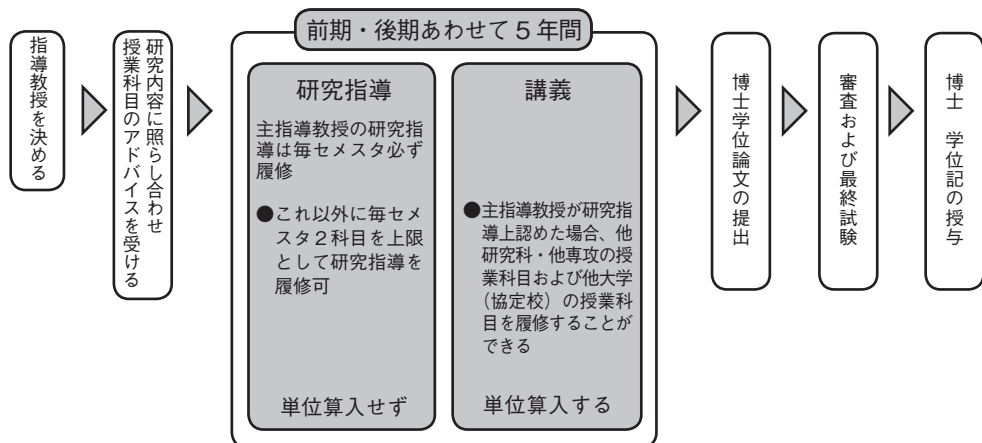
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

教育学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

教育学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
学校教育研究特殊講義A	2	EDU601	春秋	講義	斎藤里美	教育学研究指導IV A/Bと共通 隔年開講
学校教育研究特殊講義B	2	EDU602				
学校教育研究演習A	2	EDU603		演習		本年度休講（隔年開講）
学校教育研究演習B	2	EDU604				
教育学説研究特殊講義A	2	EDU605	春秋	講義	吉良直	教育学研究指導VII A/Bと共通 隔年開講
教育学説研究特殊講義B	2	EDU606				
教育学説研究演習A	2	EDU607		演習		本年度休講（隔年開講）
教育学説研究演習B	2	EDU608				
教育学説史研究特殊講義A	2	EDU609	春秋	講義	北野秋男	
教育学説史研究特殊講義B	2	EDU610				
比較教育史演習A	2	EDU611	春秋	演習	須田将司	教育学研究指導XV A/Bと共通
比較教育史演習B	2	EDU612				
発達障害児教育研究特殊講義A	2	SNE601	春秋	講義	大江啓賢	教育学研究指導XIX A/Bと共通 隔年開講
発達障害児教育研究特殊講義B	2	SNE602				
発達障害児教育研究演習A	2	SNE603		演習		本年度休講（隔年開講）
発達障害児教育研究演習B	2	SNE604				
発達障害児臨床心理研究特殊講義A	2	SNE605	春秋	講義	緒方登士雄	教育学研究指導II A/Bと共通
発達障害児臨床心理研究特殊講義B	2	SNE606				
学習指導論特殊講義A	2	EDU613	春秋	講義	栗原久	教育学研究指導V A/Bと共通
学習指導論特殊講義B	2	EDU614				
学習指導論研究演習A	2	EDU615	春秋	演習	下田好行	教育学研究指導VIII A/Bと共通
学習指導論研究演習B	2	EDU616				
心理査定法特殊講義A	2	EDP601	春秋	講義	榎本淳子	教育学研究指導XIII Aと共通 本年度休講（隔年開講）
心理査定法特殊講義B	2	EDP602				
臨床教育心理学特殊講義A	2	EDP603		講義		本年度休講（隔年開講）
臨床教育心理学特殊講義B	2	EDP604				
臨床教育心理学研究演習A	2	EDP605	春秋	演習	東條吉邦	隔年開講
臨床教育心理学研究演習B	2	EDP606				
臨床教育心理治療法特殊講義	2	EDP607	春秋	講義	篠崎信之	教育学研究指導IX Bと共通
カウンセリング実習	2	EDP608	春秋	演習	篠崎信之	教育学研究指導IX Aと共通
心理発達学特殊講義A	2	EDP609	春秋	講義	瀧澤利行	集中講義
心理発達学特殊講義B	2	EDP610				
心理適応論特殊講義A	2	EDP611	春秋	講義	高野聡子	教育学研究指導XII A/Bと共通 隔年開講
心理適応論特殊講義B	2	EDP612				
心理適応論研究演習A	2	EDP613	春秋	演習	藤岡孝志	隔年開講
心理適応論研究演習B	2	EDP614				
学習心理学特殊講義A	2	EDP615	春秋	講義	西永堅	集中講義
学習心理学特殊講義B	2	EDP616				
生徒指導・進路指導特殊講義	2	EDU617	秋	講義	谷口明子	教育学研究指導XII Bと共通
生涯学習の研究特殊講義A	2	EDU618		講義		本年度休講
生涯学習の研究特殊講義B	2	EDU619				
生涯学習計画の研究演習A	2	EDU620		演習		本年度休講
生涯学習計画の研究演習B	2	EDU621				
教育社会学研究特殊講義A	2	SOE601	春秋	講義	木村元	
教育社会学研究特殊講義B	2	SOE602				
女性学の研究演習A	2	SOE603	春秋	演習	内藤和美	集中講義
女性学の研究演習B	2	SOE604				
生活文化研究特殊講義A	2	EDU622		講義		本年度休講（隔年開講）
生活文化研究特殊講義B	2	EDU623				
生活文化研究演習A	2	EDU624	春秋	演習	関直規	教育学研究指導XI A/Bと共通 隔年開講
生活文化研究演習B	2	EDU625				
教育行財政学特殊講義A	2	SOE605	春秋	講義	藤本典裕	
教育行財政学特殊講義B	2	SOE606				
教育行財政学研究演習A	2	SOE607		演習		本年度休講（隔年開講）
教育行財政学研究演習B	2	SOE608				
授業分析論特殊講義	2	EDU626	秋	講義	桂直美	教育学研究指導XI Bと共通
音楽科教育研究演習	2	ESS601	春秋	演習	桂直美	教育学研究指導XI Aと共通
環境教育論特殊講義	2	ESS602	春秋	講義	鈴木一成	教育学研究指導III Aと共通
理科教育研究演習	2	ESS603	春秋	演習	鈴木一成	教育学研究指導III Bと共通
国語科教育研究演習	2	ESS604	春秋	演習	勝田光	
算数・数学科教育特殊講義	2	ESS605	春秋	講義	長谷川勝久	教育学研究指導XIV Aと共通
算数・数学科教育研究演習	2	ESS606	春秋	演習	長谷川勝久	教育学研究指導XIV Bと共通

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
図画工作・美術科教育研究演習	2	ESS607	春	演習	北澤俊之	教育学研究指導ⅫAと共通
社会科教育研究演習	2	ESS608	春	演習	江口勇治	
比較教育史特殊講義	2	EDU627		講義		本年度休講
教育文化論特殊講義	2	SOE609	春	講義	上田幸夫	
教育心理学特殊講義	2	EDP617	春	講義	谷口明子	教育学研究指導ⅫAと共通
教育相談学特殊講義	2	EDP618	秋	講義	榎本淳子	教育学研究指導ⅫBと共通
教育学研究指導ⅠA		REG601				本年度休講
教育学研究指導ⅠB		REG602				
教育学研究指導ⅡA		REG603	春		緒方登士雄	
教育学研究指導ⅡB		REG604	秋			
教育学研究指導ⅢA		REG605	春		鈴木一成	
教育学研究指導ⅢB		REG606	秋			
教育学研究指導ⅣA		REG607	春		斎藤里美	
教育学研究指導ⅣB		REG608	秋			
教育学研究指導ⅤA		REG609	春		栗原久	
教育学研究指導ⅤB		REG610	秋			
教育学研究指導ⅥA		REG611				本年度休講
教育学研究指導ⅥB		REG612				
教育学研究指導ⅦA		REG613	春		吉良直	
教育学研究指導ⅦB		REG614	秋			
教育学研究指導ⅧA		REG615	春		下田好行	
教育学研究指導ⅧB		REG616	秋			
教育学研究指導ⅨA		REG617	春		篠崎信之	
教育学研究指導ⅨB		REG618	秋			
教育学研究指導ⅩA		REG619	春		藤本典裕	
教育学研究指導ⅩB		REG620	秋			
教育学研究指導ⅪA		REG621	春		桂直美	
教育学研究指導ⅪB		REG622	秋			
教育学研究指導ⅫA		REG623	春		谷口明子	
教育学研究指導ⅫB		REG624	秋			
教育学研究指導ⅬA		REG625	春		榎本淳子	
教育学研究指導ⅬB		REG626	秋			
教育学研究指導ⅭA		REG627	春		長谷川勝久	
教育学研究指導ⅭB		REG628	秋			
教育学研究指導ⅮA		REG629	春		須田将司	
教育学研究指導ⅮB		REG630	秋			
教育学研究指導ⅯA		REG631	春		関直規	
教育学研究指導ⅯB		REG632	秋			
教育学研究指導ⅰA		REG633	春		高野聡子	
教育学研究指導ⅰB		REG634	秋			
教育学研究指導ⅱA		REG635	春		北澤俊之	
教育学研究指導ⅱB		REG636	秋			
教育学研究指導ⅲA		REG637	春		大江啓賢	
教育学研究指導ⅲB		REG638	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(各研究指導は、指定された講義または演習において行う)。
3. 主指導教授が担当する「講義」および「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降(長期履修学生および原級した場合等)の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたもの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる(同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位(既修得単位)と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

授業科目・研究指導						講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング	学期			
教育学特殊研究Ⅰ	4	教育学特殊研究ⅠA	2	EDU701	春秋	講義	矢口悦子	教育学研究指導ⅠA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅠB	2	EDU702				
教育学特殊研究Ⅱ	4	教育学特殊研究ⅡA	2	EDU703	春秋	講義	吉良直	教育学研究指導ⅡA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅡB	2	EDU704				
教育学特殊研究Ⅲ	4	教育学特殊研究ⅢA	2	EDU705	春秋	講義	谷口明子	教育学研究指導ⅢA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅢB	2	EDU706				
教育学特殊研究Ⅳ	4	教育学特殊研究ⅣA	2	EDU707	春秋	講義		本年度休講
		教育学特殊研究ⅣB	2	EDU708				
教育学特殊研究Ⅴ	4	教育学特殊研究ⅤA	2	EDU709	春秋	講義	斎藤里美	教育学研究指導ⅤA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅤB	2	EDU710				
教育学特殊研究Ⅵ	4	教育学特殊研究ⅥA	2	EDU711	春秋	講義	篠崎信之	教育学研究指導ⅥA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅥB	2	EDU712				
教育学特殊研究Ⅶ	4	教育学特殊研究ⅦA	2	EDU713	春秋	講義	緒方登士雄	教育学研究指導ⅦA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅦB	2	EDU714				
教育学特殊研究Ⅷ	4	教育学特殊研究ⅧA	2	EDU715	春秋	講義	藤本典裕	教育学研究指導ⅧA/Bと共通
		教育学特殊研究ⅧB	2	EDU716				
教育学特殊研究ⅨA	2	教育学特殊研究ⅨA	2	EDU717	春秋	講義	栗原久	教育学研究指導ⅨA/Bと共通
教育学特殊研究ⅨB	2	教育学特殊研究ⅨB	2	EDU718				
教育学特殊研究ⅩA	2	教育学特殊研究ⅩA	2	EDU719	春秋	講義	下田好行	教育学研究指導ⅩA/Bと共通
教育学特殊研究ⅩB	2	教育学特殊研究ⅩB	2	EDU720				
教育学特殊研究ⅪA	2	教育学特殊研究ⅪA	2	EDU721	春秋	講義		本年度休講
教育学特殊研究ⅪB	2	教育学特殊研究ⅪB	2	EDU722				
教育学特殊研究ⅫA	2	教育学特殊研究ⅫA	2	EDU723	春秋	講義	須田将司	教育学研究指導ⅫA/Bと共通
教育学特殊研究ⅫB	2	教育学特殊研究ⅫB	2	EDU724				
教育学特殊研究ⅬA	2	教育学特殊研究ⅬA	2	EDU725	春秋	講義	長谷川勝久	教育学研究指導ⅬA/Bと共通
教育学特殊研究ⅬB	2	教育学特殊研究ⅬB	2	EDU726				
教育学特殊研究ⅭA	2	教育学特殊研究ⅭA	2	EDU727	春秋	講義	桂直美	教育学研究指導ⅭA/Bと共通
教育学特殊研究ⅭB	2	教育学特殊研究ⅭB	2	EDU728				
教育学特殊研究ⅮA	2	教育学特殊研究ⅮA	2	EDU729	春秋	講義	北澤俊之	教育学研究指導ⅮA/Bと共通
教育学特殊研究ⅮB	2	教育学特殊研究ⅮB	2	EDU730				
教育学研究指導Ⅰ		教育学研究指導ⅠA		REG701	春秋		矢口悦子	
		教育学研究指導ⅠB		REG702				
教育学研究指導Ⅱ		教育学研究指導ⅡA		REG703	春秋		吉良直	
		教育学研究指導ⅡB		REG704				
教育学研究指導Ⅲ		教育学研究指導ⅢA		REG705	春秋		谷口明子	
		教育学研究指導ⅢB		REG706				
教育学研究指導Ⅳ		教育学研究指導ⅣA		REG707	春秋			本年度休講
		教育学研究指導ⅣB		REG708				
教育学研究指導Ⅴ		教育学研究指導ⅤA		REG709	春秋		斎藤里美	
		教育学研究指導ⅤB		REG710				
教育学研究指導Ⅵ		教育学研究指導ⅥA		REG711	春秋		篠崎信之	
		教育学研究指導ⅥB		REG712				
教育学研究指導Ⅶ		教育学研究指導ⅦA		REG713	春秋		緒方登士雄	
		教育学研究指導ⅦB		REG714				
教育学研究指導Ⅷ		教育学研究指導ⅧA		REG715	春秋		藤本典裕	
		教育学研究指導ⅧB		REG716				
教育学研究指導ⅨA		教育学研究指導ⅨA		REG717	春秋		栗原久	
教育学研究指導ⅨB		教育学研究指導ⅨB		REG718				
教育学研究指導ⅩA		教育学研究指導ⅩA		REG719	春秋		下田好行	
教育学研究指導ⅩB		教育学研究指導ⅩB		REG720				
教育学研究指導ⅪA		教育学研究指導ⅪA		REG721	春秋			本年度休講
教育学研究指導ⅪB		教育学研究指導ⅪB		REG722				
教育学研究指導ⅫA		教育学研究指導ⅫA		REG723	春秋		須田将司	
教育学研究指導ⅫB		教育学研究指導ⅫB		REG724				
教育学研究指導ⅬA		教育学研究指導ⅬA		REG725	春秋		長谷川勝久	
教育学研究指導ⅬB		教育学研究指導ⅬB		REG726				
教育学研究指導ⅭA		教育学研究指導ⅭA		REG727	春秋		桂直美	
教育学研究指導ⅭB		教育学研究指導ⅭB		REG728				
教育学研究指導ⅮA		教育学研究指導ⅮA		REG729	春秋		北澤俊之	
教育学研究指導ⅮB		教育学研究指導ⅮB		REG730				

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

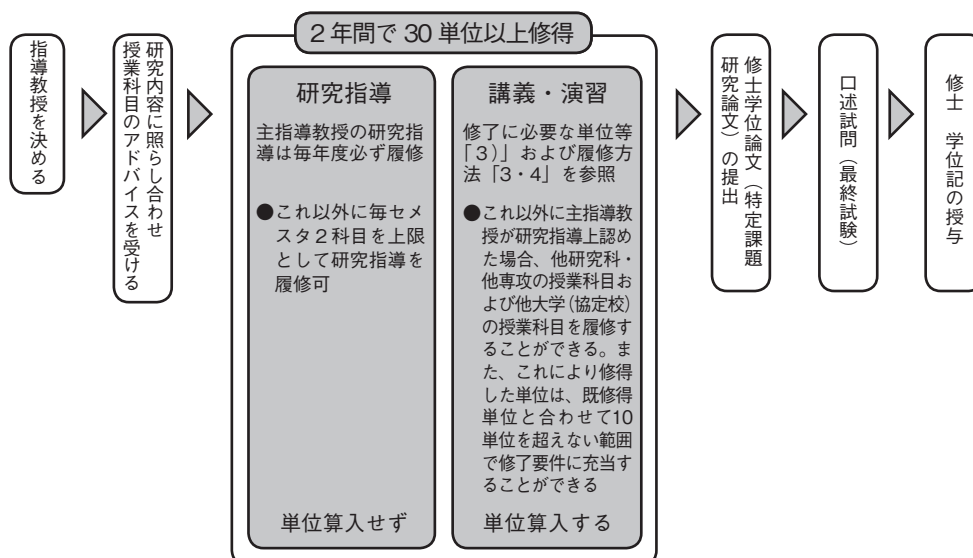
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

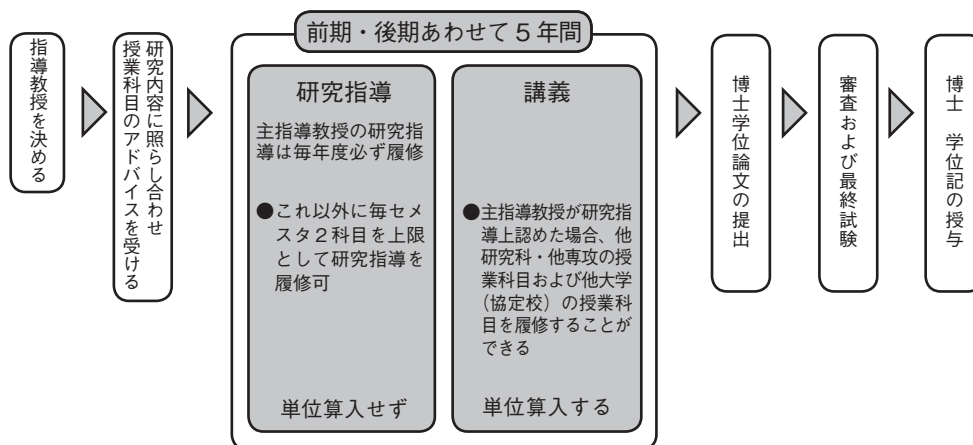
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

国際文化コミュニケーション専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

国際文化コミュニケーション専攻

博士前期課程

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	科目 ナンバリング	言 語	学 期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
言語コミュニケーション領域科目	言語コミュニケーション演習ⅠA	英語文法分析	2	ENL601	英	春秋	演習	鈴木 雅 光	日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導Ⅰ A/Bと共通
	言語コミュニケーション演習ⅠB	英語文法分析	2	ENL602					
	言語コミュニケーション演習ⅡA	語用論	2	LIN601	英	春秋	演習	高 橋 雄 範	日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導Ⅱ A/Bと共通
	言語コミュニケーション演習ⅡB	語用論	2	LIN602					
	言語コミュニケーション演習ⅢA	翻訳・通訳論	2	FLE601	英	春秋	演習	竹 内 美 紀	日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導Ⅲ A/Bと共通
	言語コミュニケーション演習ⅢB	翻訳・通訳論	2	FLE602					
	言語コミュニケーション演習ⅣA	日本語教育	2	JLE601	英	春秋	演習	平 畑 奈 美	言語コミュニケーション研究指導Ⅳ A/Bと共通
	言語コミュニケーション演習ⅣB	日本語教育	2	JLE602					
	言語コミュニケーション演習ⅤA	日英対照言語論	2	ENL603	英	春秋	演習	松 倉 信 幸	日英隔年開講
	言語コミュニケーション演習ⅤB	日英対照言語論	2	ENL604					
	言語コミュニケーション研究ⅠA	異文化コミュニケーション	2	FLE603	英	春秋	講義	近 藤 裕 子	日英隔年開講
	言語コミュニケーション研究ⅠB	異文化コミュニケーション	2	FLE604					
	言語コミュニケーション研究ⅡA	テキスト理論	2	LIN603	英	春秋	講義	竹野谷 みゆき	日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導Ⅴ A/Bと共通
	言語コミュニケーション研究ⅡB	テキスト理論	2	LIN604					
	言語コミュニケーション研究ⅢA	スピーチコミュニケーション論	2	LIN605	英	春秋	講義	岩 本 典 子	日英隔年開講
	言語コミュニケーション研究ⅢB	スピーチコミュニケーション論	2	LIN606					
	言語コミュニケーション研究ⅣA	英語コミュニケーション教育	2	ENL605	英	春秋	講義	渋谷 和 郎	日英隔年開講
	言語コミュニケーション研究ⅣB	英語コミュニケーション教育	2	ENL606					
	言語コミュニケーション研究ⅤA	日本語教育	2	JLE603	英	春秋	講義	太 田 陽 子	
	言語コミュニケーション研究ⅤB	日本語教育	2	JLE604					
言語コミュニケーション研究ⅥA	ドイツ語	2	GER601	英	秋	講義	大 野 寿 子	本年度休講（隔年開講） 隔年開講 国際文化研究指導ⅠBと共通	
言語コミュニケーション研究ⅥB	ドイツ語	2	GER602						
言語コミュニケーション研究ⅦA	フランス語	2	FRA601	英	春	講義	朝比奈 美知子	本年度休講（隔年開講） 隔年開講 国際文化研究指導ⅡAと共通	
言語コミュニケーション研究ⅦB	フランス語	2	FRA602						
国際文化領域科目	国際文化演習ⅠA	ドイツ文学・文化	2	EUL601	英	春	演習	大 野 寿 子	本年度休講（隔年開講） 隔年開講 国際文化研究指導ⅠAと共通
	国際文化演習ⅠB	ドイツ文学・文化	2	EUL602					
	国際文化演習ⅡA	フランス文学・文化	2	EUL603	英	秋	演習	朝比奈 美知子	本年度休講（隔年開講） 隔年開講 国際文化研究指導ⅡBと共通
	国際文化演習ⅡB	フランス文学・文化	2	EUL604					
	国際文化演習ⅢA	日本文学	2	JLT601	英	春秋	演習	石 田 仁 志	国際文化研究指導Ⅲ A/Bと共通
	国際文化演習ⅢB	日本文学	2	JLT602					
	国際文化演習ⅣA	視覚文化	2	LIG601	英	春秋	演習	堀 ひとみ	日英隔年開講
	国際文化演習ⅣB	視覚文化	2	LIG602					
	国際文化研究ⅠA	英語文学・文化	2	LIE601	英	春秋	講義	佐 藤 泰 人	日英隔年開講 国際文化研究指導Ⅴ A/Bと共通
	国際文化研究ⅠB	英語文学・文化	2	LIE602					
	国際文化研究ⅡA	科学的思考論	2	SHS601	英	春秋	講義	萩 原 喜 昭	
	国際文化研究ⅡB	科学的思考論	2	SHS602					
	国際文化研究ⅢA	マスコミ文芸論	2	JLT603	英	春秋	講義	尾 崎 真理子	
	国際文化研究ⅢB	マスコミ文芸論	2	JLT604					

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	科目ナンバリング	言語	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
研究指導	国際文化研究ⅣA	日本文化史	2	LIG603		春	講義	堀 ひかり	日英隔年開講 国際文化研究指導Ⅳ A/B と共通
	国際文化研究ⅣB	日本文化史	2	LIG604	英	秋			
	言語コミュニケーション研究指導ⅠA	英語文法分析		REG601		春		鈴木 雅 光	
	言語コミュニケーション研究指導ⅠB	英語文法分析		REG602		秋			
	言語コミュニケーション研究指導ⅡA	語用論		REG603		春		高 橋 雄 範	
	言語コミュニケーション研究指導ⅡB	語用論		REG604		秋			
	言語コミュニケーション研究指導ⅢA	翻訳・通訳論		REG605		春		竹 内 美 紀	
	言語コミュニケーション研究指導ⅢB	翻訳・通訳論		REG606		秋			
	言語コミュニケーション研究指導ⅣA	日本語教育		REG607		春		平 畑 奈 美	
	言語コミュニケーション研究指導ⅣB	日本語教育		REG608		秋			
	言語コミュニケーション研究指導ⅤA	テキスト理論		REG609		春		竹野谷 みゆき	
	言語コミュニケーション研究指導ⅤB	テキスト理論		REG610		秋			
	国際文化研究指導ⅠA	ドイツ文学・文化		REG611		春		大 野 寿 子	
	国際文化研究指導ⅠB	ドイツ文学・文化		REG612		秋			
	国際文化研究指導ⅡA	フランス文学・文化		REG613		春		朝比奈 美知子	
	国際文化研究指導ⅡB	フランス文学・文化		REG614		秋			
	国際文化研究指導ⅢA	日本文学		REG615		春		石 田 仁 志	
	国際文化研究指導ⅢB	日本文学		REG616		秋			
	国際文化研究指導ⅣA	日本文化史		REG617		春		堀 ひかり	
	国際文化研究指導ⅣB	日本文化史		REG618		秋			
国際文化研究指導ⅤA	英語文学・文化		REG619		春		佐 藤 泰 人		
国際文化研究指導ⅤB	英語文学・文化		REG620		秋				

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 言語コミュニケーション領域科目および国際文化領域科目から、それぞれ2科目4単位以上の計4科目8単位以上を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
4. 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づき、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
言語コミュニケーション領域科目	言語コミュニケーション特殊研究I A	英語構造分析	2	ENL701	春秋	講義	鈴木 雅 光	言語コミュニケーション研究指導 I A/B と共通
	言語コミュニケーション特殊研究I B	英語構造分析	2	ENL702	春秋			
	言語コミュニケーション特殊研究II A	語用論	2	LIN701	春秋	講義	高 橋 雄 範	言語コミュニケーション研究指導 II A/B と共通
	言語コミュニケーション特殊研究II B	語用論	2	LIN702	春秋			
	言語コミュニケーション特殊研究III A	翻訳・通訳論	2	FLE701	春秋	講義	竹 内 美 紀	言語コミュニケーション研究指導 III A/B と共通
	言語コミュニケーション特殊研究III B	翻訳・通訳論	2	FLE702	春秋			
	言語コミュニケーション特殊研究IV A	日本語教育	2	JLE701	春秋	講義	平 畑 奈 美	言語コミュニケーション研究指導 IV A/B と共通
	言語コミュニケーション特殊研究IV B	日本語教育	2	JLE702	春秋			
	言語コミュニケーション特殊研究V A	テキスト理論	2	LIN703	春秋	講義	竹野谷 みゆき	言語コミュニケーション研究指導 V A/B と共通
	言語コミュニケーション特殊研究V B	テキスト理論	2	LIN704	春秋			
国際文化領域科目	国際文化特殊研究 I A	ドイツ文学・文化	2	EUL701	春秋	講義	大 野 寿 子	国際文化研究指導 I A/B と共通
	国際文化特殊研究 I B	ドイツ文学・文化	2	EUL702	春秋			
	国際文化特殊研究 II A	フランス文学・文化	2	EUL703	春秋	講義	朝比奈 美知子	国際文化研究指導 II A/B と共通
	国際文化特殊研究 II B	フランス文学・文化	2	EUL704	春秋			
	国際文化特殊研究 III A	日本文学	2	JLT701	春秋	講義	石 田 仁 志	国際文化研究指導 III A/B と共通
	国際文化特殊研究 III B	日本文学	2	JLT702	春秋			
	国際文化特殊研究 IV A	日本文化史	2	LIG701	春秋	講義	堀 ひとかり	国際文化研究指導 IV A/B と共通
	国際文化特殊研究 IV B	日本文化史	2	LIG702	春秋			
研究指導	言語コミュニケーション研究指導I A	英語構造分析		REG701	春秋		鈴木 雅 光	
	言語コミュニケーション研究指導I B	英語構造分析		REG702	春秋			
	言語コミュニケーション研究指導II A	語用論		REG703	春秋		高 橋 雄 範	
	言語コミュニケーション研究指導II B	語用論		REG704	春秋			
	言語コミュニケーション研究指導III A	翻訳・通訳論		REG705	春秋		竹 内 美 紀	
	言語コミュニケーション研究指導III B	翻訳・通訳論		REG706	春秋			
	言語コミュニケーション研究指導IV A	日本語教育		REG707	春秋		平 畑 奈 美	
	言語コミュニケーション研究指導IV B	日本語教育		REG708	春秋			
	言語コミュニケーション研究指導V A	テキスト理論		REG709	春秋		竹野谷 みゆき	
	言語コミュニケーション研究指導V B	テキスト理論		REG710	春秋			
	国際文化研究指導 I A	ドイツ文学・文化		REG711	春秋		大 野 寿 子	
	国際文化研究指導 I B	ドイツ文学・文化		REG712	春秋			
	国際文化研究指導 II A	フランス文学・文化		REG713	春秋		朝比奈 美知子	
	国際文化研究指導 II B	フランス文学・文化		REG714	春秋			
	国際文化研究指導 III A	日本文学		REG715	春秋		石 田 仁 志	
	国際文化研究指導 III B	日本文学		REG716	春秋			
	国際文化研究指導 IV A	日本文化史		REG717	春秋		堀 ひとかり	
	国際文化研究指導 IV B	日本文化史		REG718	春秋			

修了に必要な単位等

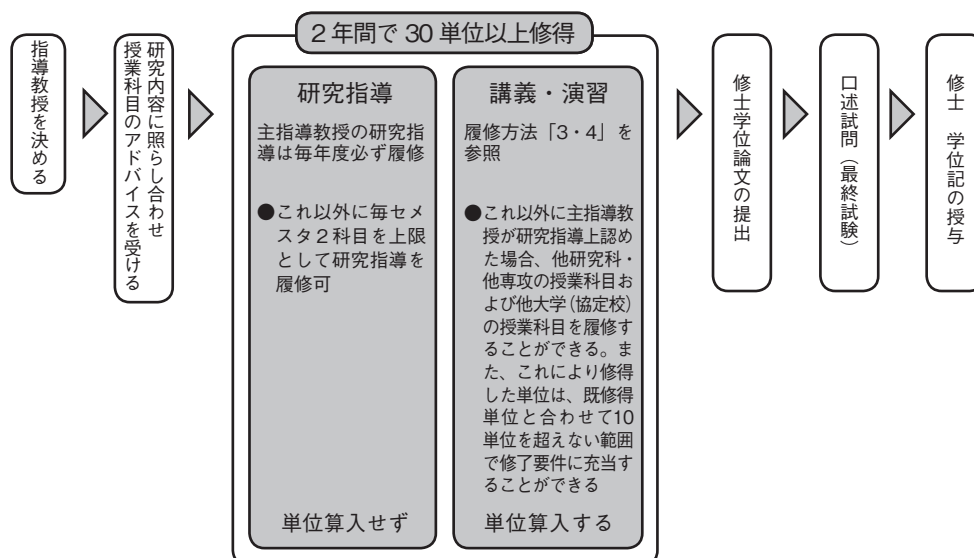
- 1) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

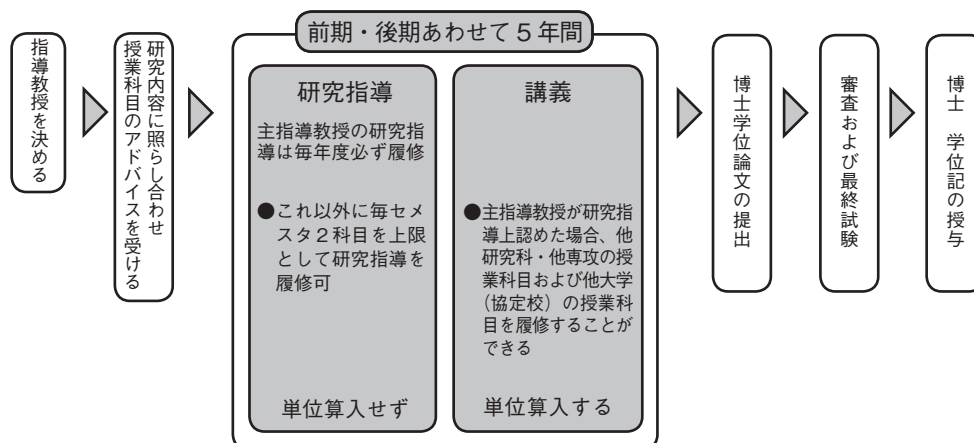
1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

英語コミュニケーション専攻 (2018年度入学生まで)

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

英語コミュニケーション専攻

博士前期課程（2018年度入学生まで）

授業科目・研究指導	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
英語文法分析演習A	2	ENL601	春秋	演習	鈴木雅光	英語文法分析研究指導A/Bと共通
英語文法分析演習B	2	ENL602	春秋	演習	鈴木雅光	
日英対照言語論演習A	2	LIN601	春秋	演習	松倉信幸	
日英対照言語論演習B	2	LIN602	春秋	演習	松倉信幸	
語用論演習A	2	LIN603	春秋	演習	高橋雄範	語用論研究指導A/Bと共通
語用論演習B	2	LIN604	春秋	演習	高橋雄範	
翻訳・通訳論演習A	2	FLE601	春秋	演習	竹内美紀	翻訳・通訳論研究指導A/Bと共通
翻訳・通訳論演習B	2	FLE602	春秋	演習	竹内美紀	
異文化コミュニケーションA	2	FLE603	春秋	講義	近藤裕子	
異文化コミュニケーションB	2	FLE604	春秋	講義	近藤裕子	
スピーチコミュニケーションA	2	FLE605		講義		本年度休講
スピーチコミュニケーションB	2	FLE606		講義		本年度休講
英語文学・英語文化A	2	LIE601	春秋	講義	佐藤泰人	英語文学・英語文化研究指導A/Bと共通
英語文学・英語文化B	2	LIE602	春秋	講義	佐藤泰人	
テキスト理論演習A	2	LIN605	春秋	講義	竹野谷みゆき	テキスト理論研究指導A/Bと共通
テキスト理論演習B	2	LIN606	春秋	講義	竹野谷みゆき	
グローバル英語教育A	2	FLE607		講義		本年度休講
グローバル英語教育B	2	FLE608		講義		本年度休講
英語コミュニケーション教育A	2	FLE609	春秋	講義	渋谷和郎	
英語コミュニケーション教育B	2	FLE610	春秋	講義	渋谷和郎	
英語文法分析研究指導A		REG601	春秋		鈴木雅光	
英語文法分析研究指導B		REG602	春秋		鈴木雅光	
日英対照言語論研究指導A		REG603				本年度休講
日英対照言語論研究指導B		REG604				本年度休講
語用論研究指導A		REG605	春秋		高橋雄範	
語用論研究指導B		REG606	春秋		高橋雄範	
翻訳・通訳論研究指導A		REG607	春秋		竹内美紀	
翻訳・通訳論研究指導B		REG608	春秋		竹内美紀	
異文化コミュニケーション研究指導A		REG609				本年度休講
異文化コミュニケーション研究指導B		REG610				本年度休講
スピーチコミュニケーション研究指導A		REG611				本年度休講
スピーチコミュニケーション研究指導B		REG612				本年度休講
英語文学・英語文化研究指導A		REG613	春秋		佐藤泰人	
英語文学・英語文化研究指導B		REG614	春秋		佐藤泰人	
テキスト理論研究指導A		REG615	春秋		竹野谷みゆき	
テキスト理論研究指導B		REG616	春秋		竹野谷みゆき	
グローバル英語教育研究指導A		REG617				本年度休講
グローバル英語教育研究指導B		REG618				本年度休講
英語コミュニケーション教育研究指導A		REG619				本年度休講
英語コミュニケーション教育研究指導B		REG620				本年度休講

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づき、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程（2018年度入学生まで）

授業科目・研究指導	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
英語文化特殊研究A		LIE701	春秋	講義	佐藤泰人	英語文化研究指導A/Bと共通
英語文化特殊研究B		LIE702	春秋	講義		
英語構造分析特殊研究A		ENL701	春秋	講義	鈴木雅光	英語構造分析研究指導A/Bと共通
英語構造分析特殊研究B		ENL702	春秋	講義		
日英対照言語学特殊研究A		LIN701		講義		本年度休講
日英対照言語学特殊研究B		LIN702		講義		
テキスト理論特殊研究A		LIN703	春秋	講義	竹野谷みゆき	テキスト理論研究指導A/Bと共通
テキスト理論特殊研究B		LIN704	春秋	講義		
英語コミュニケーション特殊研究A		FLE701	春秋	講義	岩本典子	
英語コミュニケーション特殊研究B		FLE702	春秋	講義		
グローバル英語教育特殊研究A		FLE703		講義		本年度休講
グローバル英語教育特殊研究B		FLE704		講義		
語用論特殊研究A		LIN705	春秋	講義	高橋雄範	語用論研究指導A/Bと共通
語用論特殊研究B		LIN706	春秋	講義		
英語文化研究指導A		REG701	春秋		佐藤泰人	
英語文化研究指導B		REG702	春秋			
英語構造分析研究指導A		REG703	春秋		鈴木雅光	
英語構造分析研究指導B		REG704	春秋			
日英対照言語学研究指導A		REG705				本年度休講
日英対照言語学研究指導B		REG706				
テキスト理論研究指導A		REG707	春秋		竹野谷みゆき	
テキスト理論研究指導B		REG708	春秋			
英語コミュニケーション研究指導A		REG709				本年度休講
英語コミュニケーション研究指導B		REG710				
グローバル英語教育研究指導A		REG711				本年度休講
グローバル英語教育研究指導B		REG712				
語用論研究指導A		REG713	春秋		高橋雄範	
語用論研究指導B		REG714	春秋			

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。